



下水道モニター 平成 22 年度 第 2 回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行っています。

第 2 回アンケートでは、「合流式下水道改善」および「下水の高度処理」にフォーカスし、これらの対策に対する認知度、理解度、および改善のために必要な支払許容額などについてうかがいました。支払許容額は、その数値をベースに CVM (Contingent Valuation Method: 仮想評価法) と呼ばれる手法を用いて、当事業の価値額を算出しています。

この報告書は、その結果をまとめたものです。

- ◆ 実施期間 平成 22 年 9 月 10 日(金)～9 月 24 日(金) 15 日間
- ◆ 対 象 者 東京都下水道局「平成 22 年度下水道モニター」
※東京都在住 20 歳以上の男女個人
- ◆ 回答者数 392 名
- ◆ 調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート

I 結果の概要

II 回答者属性

III 集計結果

1. 「合流式下水道」の認知状況、理解度、有効性評価
2. 「下水の高度処理」の認知状況、理解度、有効性評価
3. CVM方式による各事業評価額算出
- 4-1. 「合流式下水道」改善に対する意見
- 4-2. 「下水の高度処理」推進に対する意見
- 4-3. 全体に対する意見

I 結果の概要

1. 「合流式下水道」の認知状況、理解度、有効性評価

4～24 頁

- ◆【「合流式下水道」の認知・理解状況】…合流式下水道の認知率は 49.2%、理解度は 6.4% であり、認知率、理解度ともに男性の方が女性より高い。年代別に見ると 70 歳以上が認知率、理解度ともに最も高い。
- ◆【「合流式下水道」の認知経路】…「合流式下水道」の認知経路については、特定の経路に限定されず分散されている状況にあり、その中では「東京都下水道局の印刷物で知った」(15.3%) が最も多く、次いで「テレビ番組で知った」(11.7%)、「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」(11.0%) が続く。
- ◆【「合流式下水道」解説の理解状況】…「合流式下水道」の解説に対する理解度は 4.54 であり、「ややわかった」以上の回答率は 92%であった。
- ◆【「合流式下水道」改善策の認知率】…「合流式下水道」改善策の認知率としては、「雨水浸透ますの設置」が 71.2%と最も高く、次いで「貯留池の整備」の 69.6%が高い。地域別に見ると、23 区では「貯留池の整備」の認知率が 72.8%と最も高く、多摩地区では「雨水浸透ますの設置」の認知率 74.3%が最も高い。
- ◆【「合流式下水道」改善策解説の理解状況】…「合流式下水道」改善策の解説については、「雨水浸透ますの設置」が 4.33 と最も理解度が高く、「しゃ集幹線の整備」が 4.07 と理解度が低い。年代別に見ると、70 歳以上の「雨水の吐口対策」の理解度が 3.91、「しゃ集幹線の整備」の理解度が 3.86 と、いずれも 4 を下回る低い理解度になっている。
- ◆【「合流式下水道」改善の有効性評価】…「合流式下水道」改善の有効性評価は 4.25 で、「やや有効」以上の回答率は 88%である。男女別に見ると、女性の評価が 4.34 と男性の評価 4.16 より 0.18 高い。年代別に見ると、20 歳代の評価の 4.40 が最も高く、70 歳以上の評価の 4.18 が最も低い。
- ◆【「合流式下水道」に対する関心度の変化】…「合流式下水道」に対する関心度の変化は 4.19 で、「やや関心が高まった」以上の回答率は 92%である。年代別に見ると、70 歳以上が 4.59 と関心を高めている一方、30 歳代、40 歳代はそれぞれ 4.06、4.05 と、他の年代と比較すると関心が高まっていない

2. 「下水の高度処理」の認知状況、理解度、有効性評価

25～36 頁

- ◆【「下水の高度処理」の認知・理解状況】…「下水の高度処理」の認知率は 63.3%、理解度は 9.4%である。認知率、理解度ともに男性の方が女性より高い。年代別に見ると 70 歳以上が認知率、理解度ともに最も高い。
- ◆【「下水の高度処理」の認知経路】…「下水の高度処理」の認知経路については、特定の経路に限定されず分散されている状況にあり、その中では「東京都下水道局の印刷物で知った」というものが 21.7%と最も多く、次いで「テレビ番組で知った」(18.6%)、「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」(16.6%) と続く。年代別に見ると、20 歳代で「テレビ番組で知った」が極めて多く 36.0%、70 歳以上で「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」が極めて多く 40.9%であったことが特徴的であった。
- ◆【「下水の高度処理」解説の理解状況】…「下水の高度処理」の解説に対する理解度は 4.25 であり、「ややわかった」以上の回答率は 91%であった。年代別に見ると、70 歳以上が 4.45 と理解度が高く、40 歳代が 4.05 と最も低い。

- ◆【「下水の高度処理」推進の有効性評価】…「下水の高度処理」推進の有効性評価は 4.41 で、「やや有効」以上の回答率は 90%である。年代別に見ると、60 歳代の評価の 4.55 が最も高く、40 歳代の評価の 4.31 が最も低い。
- ◆【「下水の高度処理」に対する関心度の変化】…「下水の高度処理」に対する関心度の変化は 4.20 で、「やや関心が高まった」以上の回答率は 89%である。年代別に見ると、70 歳以上が 4.55 と関心を高めている一方、30 歳代は 4.03 と低い。

3. CVM方式による各事業評価額算出

37～49 頁

- ◆【CVMによる「合流式下水道」改善事業価値算出】…「合流式下水道」改善事業の価値評価額は 1 世帯あたり 3,353 円～7,215 円、島部を除く東京都としての価値評価額は 212 億円～455 億円である。
- ◆【CVMによる「下水の高度処理」推進事業価値算出】…「下水の高度処理」推進事業の価値評価額は 1 世帯あたり 2,914 円～7,357 円、島部を除く東京都としての価値評価額は 184 億円～464 億円である。
- ◆【事業に対する関心度と事業価値評価額の関係】…「合流式下水道」改善事業に関心の高いグループの価値評価額は 1 世帯あたり 6,169 円～11,027 円で、「下水の高度処理」推進事業に関心の高いグループの価値評価額は 1 世帯あたり 6,633 円～11,387 円である。
- ◆【事業価値評価額の男女差】…「合流式下水道」改善事業について、男性の価値評価額は 1 世帯あたり 3,713 円～8,344 円、女性の価値評価額は 1 世帯あたり 3,053 円～6,240 円である。「下水の高度処理」推進事業について、男性の価値評価額は 1 世帯あたり 3,309 円～8,629 円、女性の価値評価額は 1 世帯あたり 2,562 円～6,176 円である。
- ◆【事業価値評価額の居住地区差】…「合流式下水道」改善事業について、23 区の価値評価額は 1 世帯あたり 3,151 円～7,242 円、多摩地区の価値評価額は 1 世帯あたり 3,615 円～7,171 円である。「下水の高度処理」推進事業について、男性の価値評価額は 1 世帯あたり 2,535 円～6,975 円、女性の価値評価額は 1 世帯あたり 3,496 円～7,802 円である。
- ◆【事業価値評価額の年代差】…「合流式下水道」改善事業の 1 世帯あたり価値評価額は、20・30 歳代で 2,330 円～5,405 円、40・50 歳代で 3,261 円～6,501 円、60 歳代以上で 6,189 円～11,387 円である。「下水の高度処理」推進事業の 1 世帯あたり価値評価額は、20・30 歳代で 2,083 円～5,557 円、40・50 歳代で 3,078 円～7,034 円、60 歳代以上で 4,204 円～10,281 円である。

4. 自由意見

50～62 頁

- ◆【「合流式下水道」改善に対する意見】…「合流式下水道」改善へのご意見としては、「機能強化の必要性・期待・提案・激励」が 26%と最も多く、次いで「ゲリラ豪雨対策（合流式下水道の改善）」についての内容が 20%と多い。
- ◆【「下水の高度処理」推進に対する意見】…「下水の高度処理」推進のご意見としては、「下水道高度処理の推進の重要性・期待・賛辞」が 39%と最も多く、次いで「下水道高度処理の推進への理解・関心」が 21%と多い。
- ◆【全体に対する意見】…全体を通じてのご意見としては、「料金負担について」が 40%と最も多く、次いで「下水道局の役割の重要性・期待・賛辞」に関する内容が 19%と多い。

Ⅱ 回答者属性

- 平成 22 年度下水道モニター数は、アンケート実施時で 746 名である。
- 第 2 回アンケートは、平成 22 年 9 月 10 日（金）から 9 月 24 日（金）までの 15 日間で実施した。その結果、392 名の方からの回答があった。（回答率 52.5%）

■回答者 性・年齢

性・年齢		回答者数	モニター数	回答率
男性	20 歳代	9	22	40.9%
	30 歳代	36	83	43.4%
	40 歳代	46	81	56.8%
	50 歳代	27	52	51.9%
	60 歳代	58	91	63.7%
	70 歳以上	19	25	76.0%
	小計	195	354	55.1%
女性	20 歳代	16	43	37.2%
	30 歳代	59	147	40.1%
	40 歳代	65	113	57.5%
	50 歳代	30	50	60.0%
	60 歳代	24	35	68.6%
	70 歳以上	3	4	75.0%
	小計	197	392	50.3%
合計		392	746	52.5%

■回答者 居住地域

地 域	回答者数	モニター数	回答率
2 3 区 部	213	419	50.8%
多摩地区	179	327	54.7%
合 計	392	746	52.5%

■回答者 職業

職 業	回答者数	モニター数	回答率
会社員	149	269	55.4%
公務員	1	13	7.7%
自営業	19	42	45.2%
学生	5	13	38.5%
私立学校教員・塾講師	3	3	100.0%
パート	25	62	40.3%
アルバイト	12	26	46.2%
専業主婦	107	200	53.5%
無職	62	99	62.6%
その他	9	19	47.4%
合計	392	746	52.5%

Ⅲ 集計結果

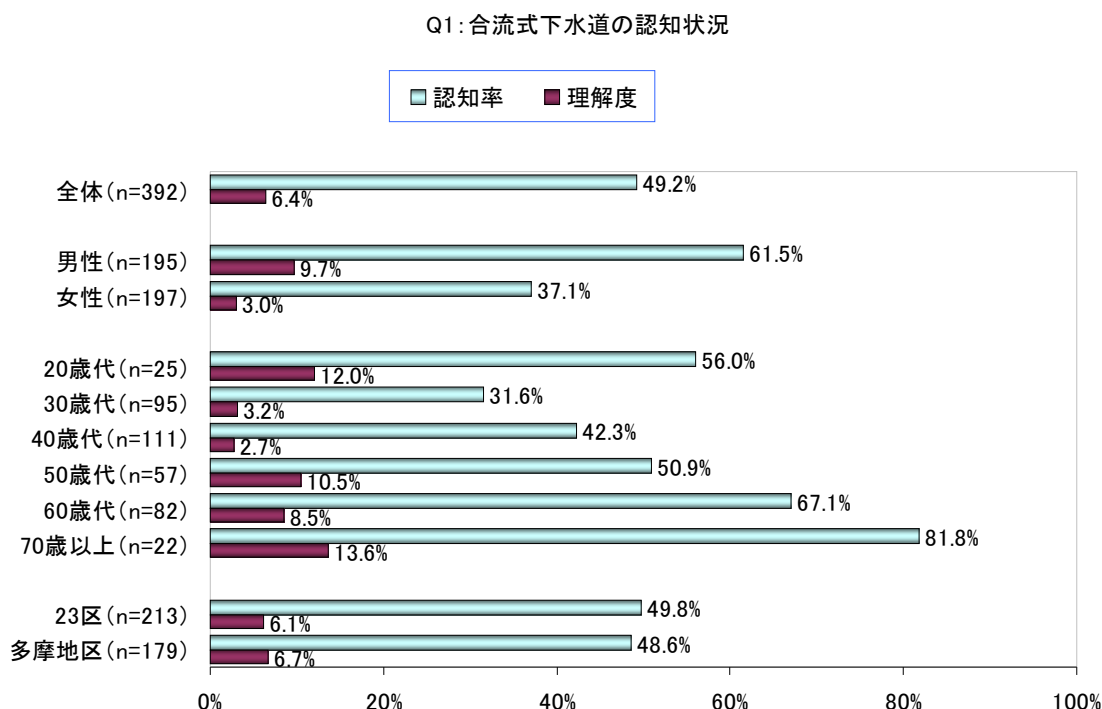
※ 文中の「n」は、質問に対する回答者数で、比率(%)はすべて「n」を基数(100%)として算出している。
また、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が100%にならないこともある。

1-1. 「合流式下水道」の認知・理解状況

- 合流式下水道の認知率は49.2%、理解度は6.4%である。
- 認知率、理解度ともに男性の方が女性より高い。
- 年代別に見ると70歳以上が認知率、理解度ともに最も高い。
- 地域別には大きな差異は見られない。

Q1. あなたは「合流式下水道」についてどのくらいご存知ですか？最もよく当てはまるものを1つお選びください（単一回答）。

図 1-1 「合流式下水道」の認知度・理解度



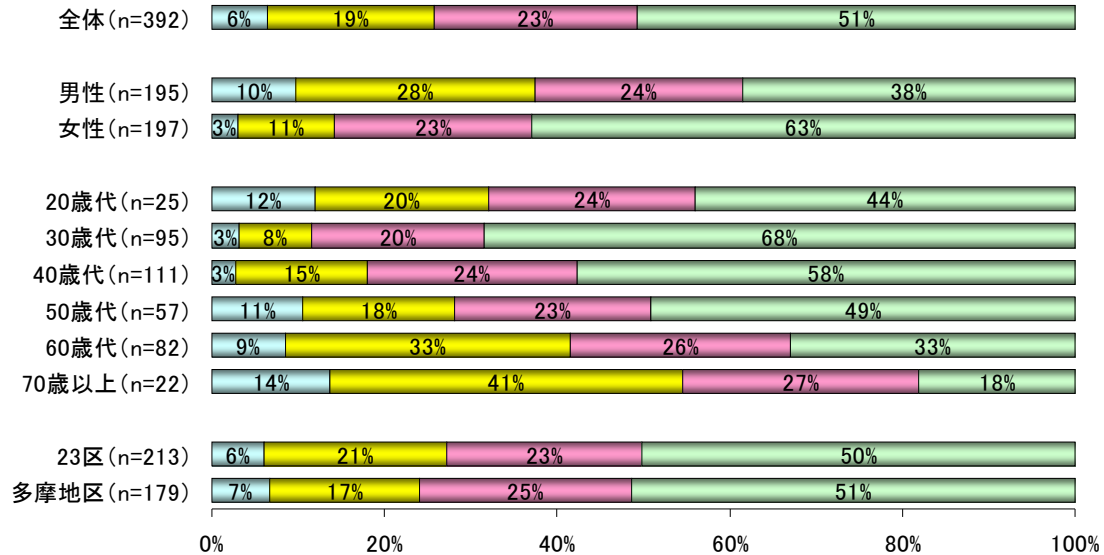
※認知率：合流式下水道の認知状況について、「よく知っている」、「名前を聞いたことがあり、ある程度は分かる」、「名前を聞いたことはあるが、よく知らない」のいずれかを回答した率を「認知率」と定義した。

※理解度：合流式下水道の認知状況について、「よく知っている」と回答した率を「理解度」と定義した。

図 1-2 「合流式下水道」の認知・理解状況

Q1: 合流式下水道の認知状況

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. よく知っている | 2. 名前を聞いたことがあり、ある程度は分かる |
| 3. 名前は聞いたことはあるが、よく知らない | 4. 名前を聞いたこともない |
| 無回答 | |



1-2. 「合流式下水道」の認知経路

- 「合流式下水道」の認知経路については、特定の経路に限定されず分散されている状況にあり、その中では「東京都下水道局の印刷物で知った」(15.3%)が最も多く、次いで「テレビ番組で知った」(11.7%)、「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」(11.0%)が続く。
- 男女別に見ると、男性は「東京都下水道局の印刷物で知った」が20.5%と最も多く、女性は「テレビ番組で知った」が11.2%と最も多い。
- 地域別に見ると、23区、多摩地区ともに「東京都下水道局の印刷物で知った」が最も多く、それぞれ14.6%、16.2%である。
- 年代別に見ても、総じて「東京都下水道局の印刷物で知った」が多いが、他に、「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」、「テレビ番組で知った」、「「広報東京都」で知った」なども多い。

Q2. あなたはどのようにして「合流式下水道」について知りましたか？当てはまるものをいくつかもお選びください。(複数回答)。

図 1-3 「合流式下水道」の認知経路

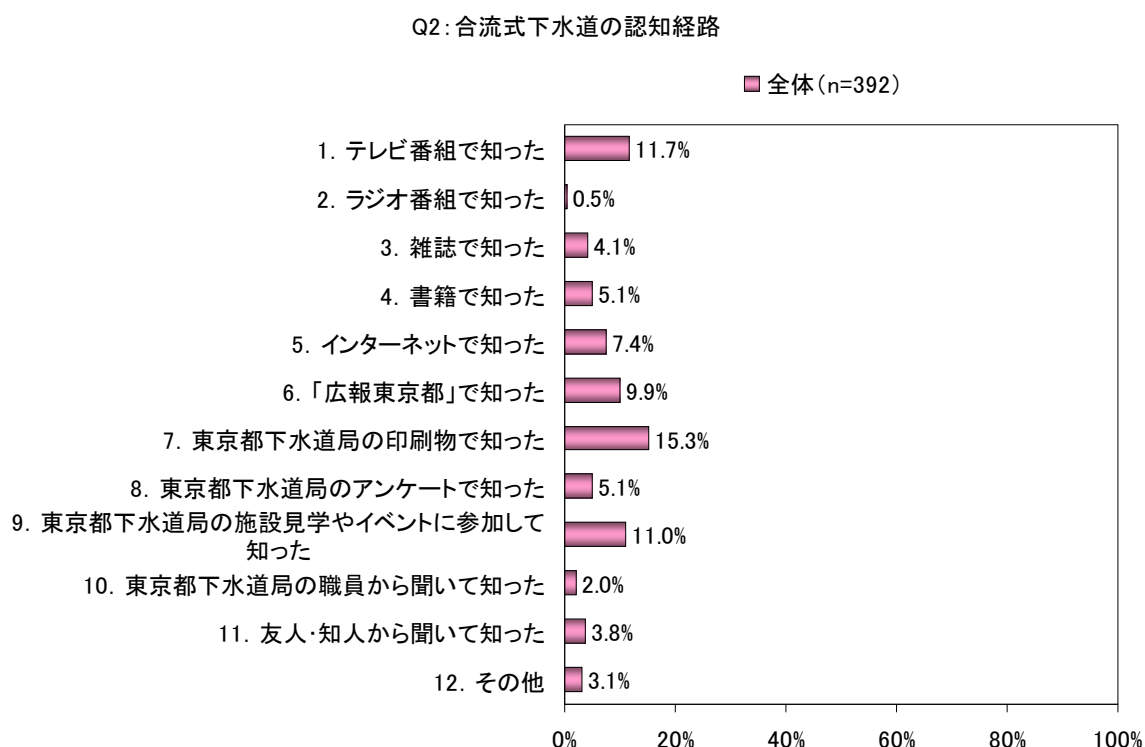


図 1-4 「合流式下水道」の男女別認知経路

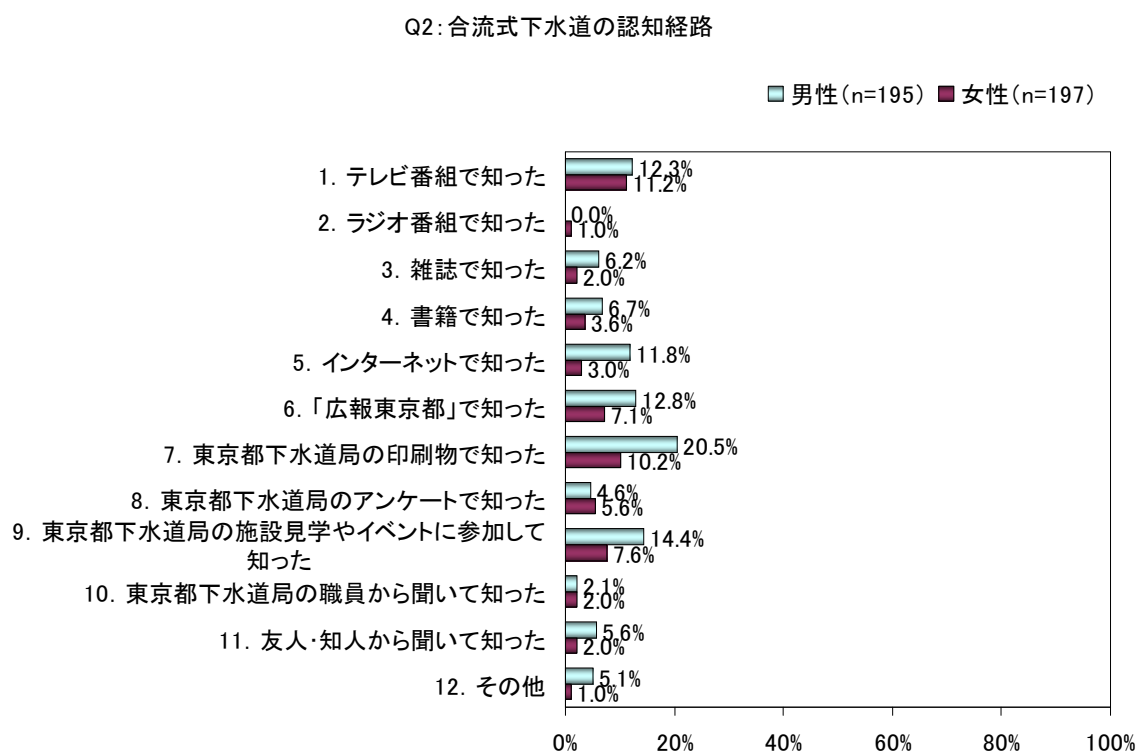


図 1-5 「合流式下水道」の地域別認知経路

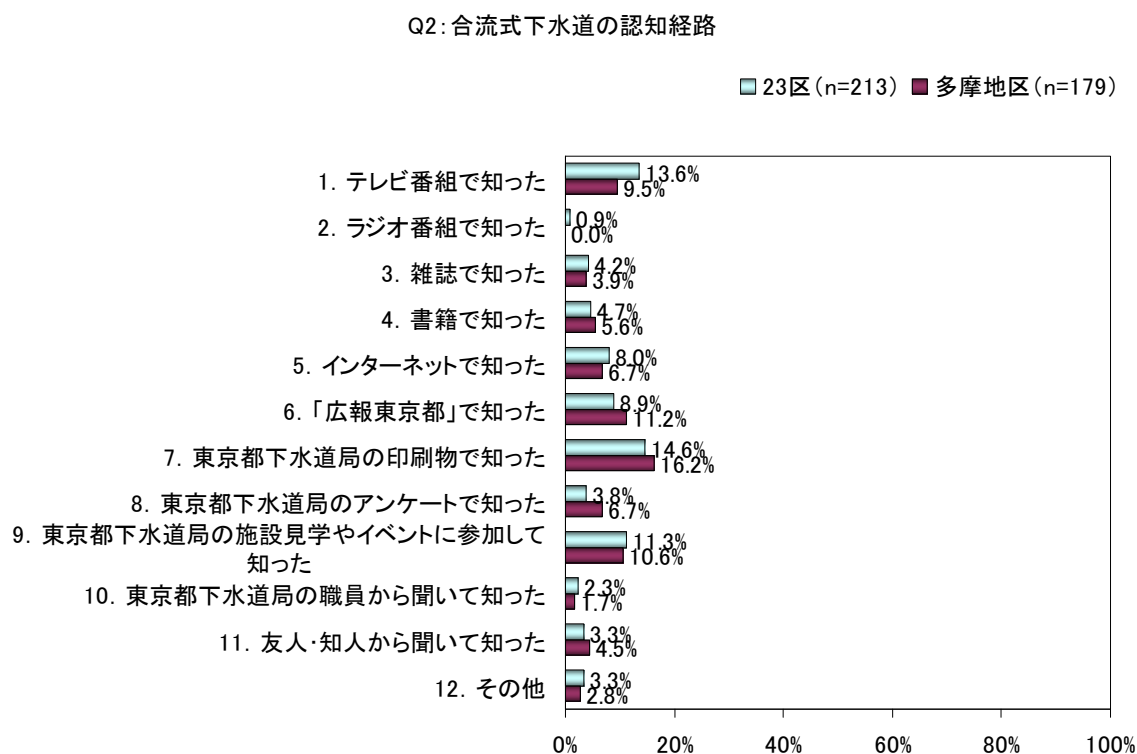
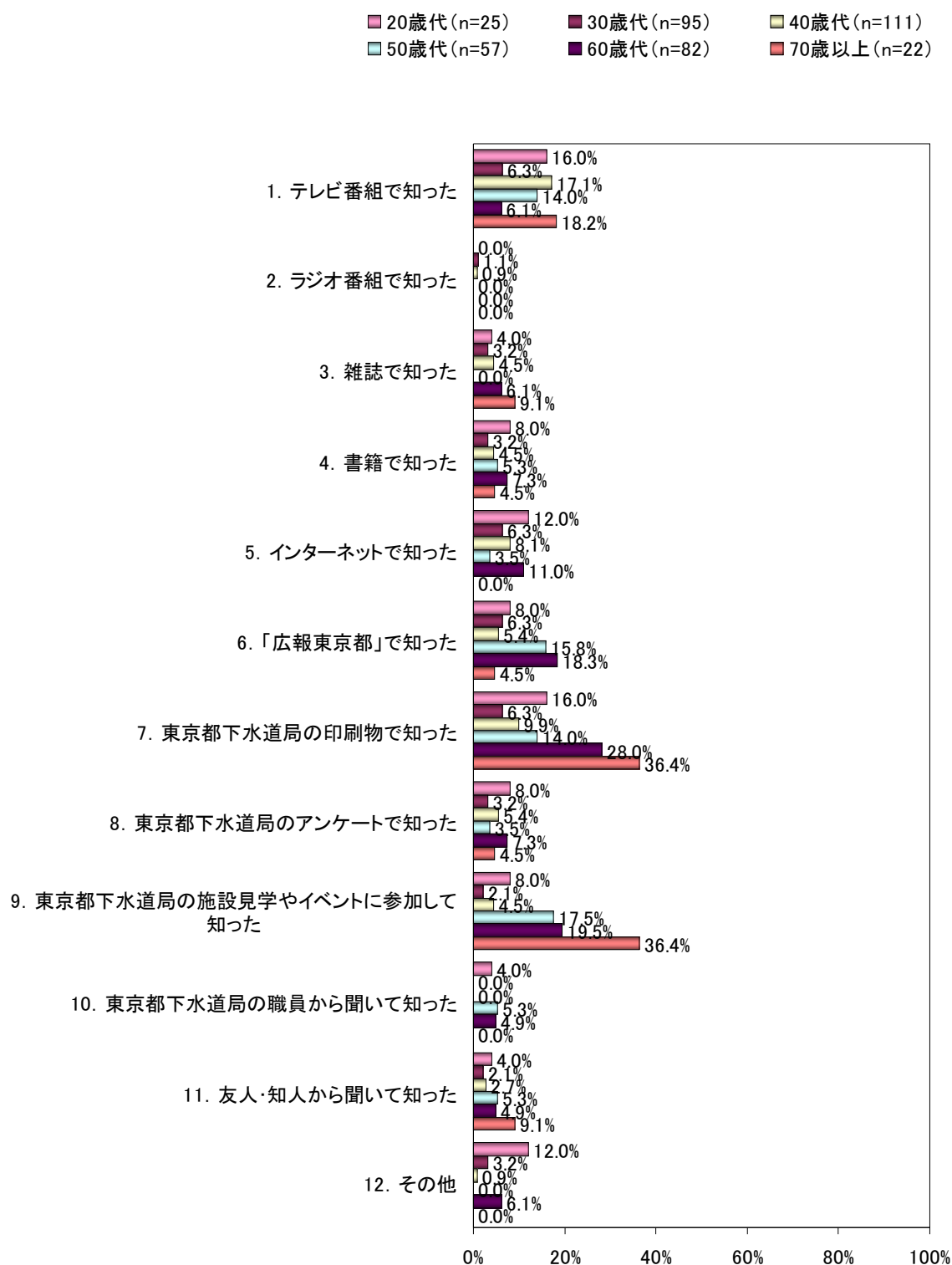


図 1-6 「合流式下水道」の年代別認知経路

Q2: 合流式下水道の認知経路



1-3. 「合流式下水道」解説の理解状況

- 「合流式下水道」の解説に対する理解度は 4.54 であり、「ややわかった」以上の回答率は 92%であった。
- 男女別に見ると、大きな差異は見られない。
- 年代別に見ると、70 歳以上が 4.82 と理解度が高く、40 歳代が 4.41 と最も低い。
- 地域別に見ると、大きな差異は見られない。

【合流式下水道について】

家庭や工場などから流す汚水と雨水をあわせて「下水」と呼び、下水の排除方式には、「合流式下水道」と「分流式下水道」の 2 種類があります。

「合流式下水道」とは、「汚水」と「雨水」とをひとつの下水道管で集めて、水再生センターまで運ぶ方式で、23 区では下水道計画面積のうち約 8 割が合流式下水道で整備されています。

「分流式下水道」とは、「汚水」と「雨水」とを別々の下水道管で集め、汚水は水再生センターまで運び、雨水はそのまま川や海に流す方式です。

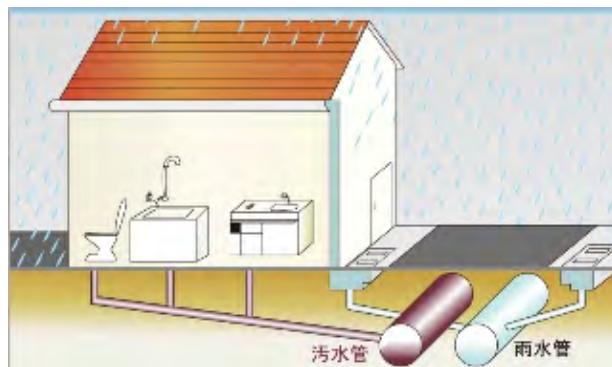
その後、水再生センターに送られた汚水は、様々な処理を施して汚れを取り除き、再生水として川や海に放流されます。

汚水と雨水をひとつの下水道管で集める「合流式下水道」では、生活環境の改善と速やかな雨水排除を同時に達成できるという利点がある一方で、大雨が降ると下水道管の処理能力をオーバーしてしまい、雨水で希釈された汚水の一部やごみが、水再生センターに送られる前に川や海に放流されてしまいます。これが、川や海的美観を損なったり水質悪化の要因にもなって、流れの少ない川や閉鎖性の水域などでは悪臭の発生にもつながります。

●合流式：汚水と雨水を同じ管で集めます。

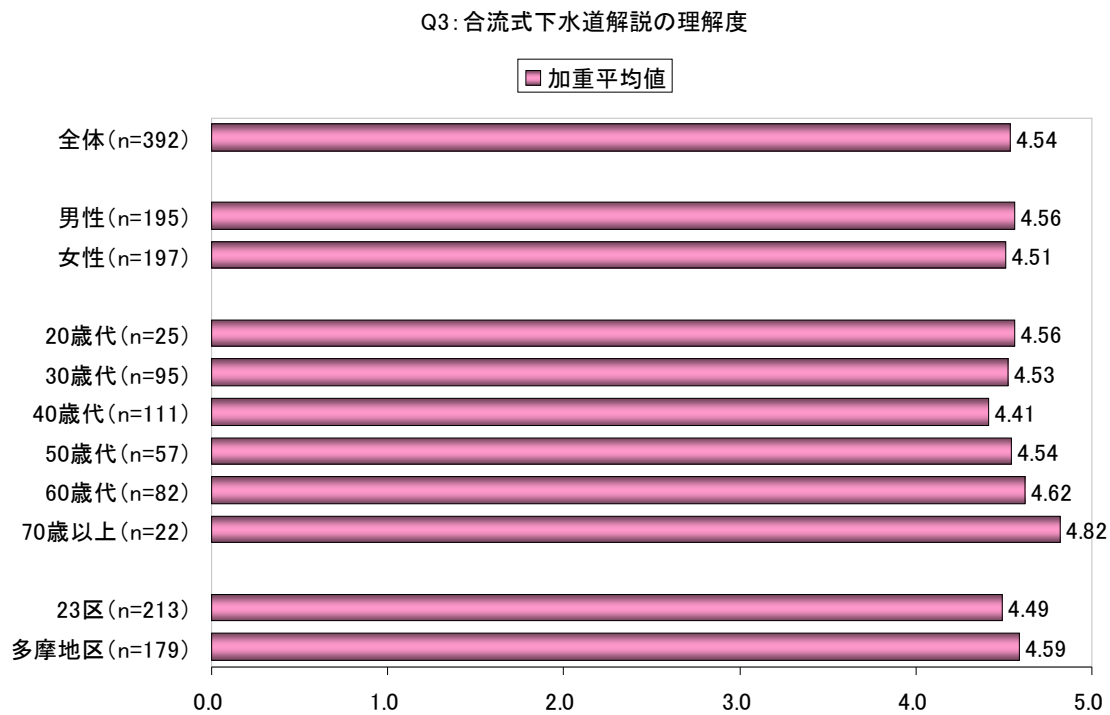


●分流式：汚水と雨水を別の管で集めます。



Q3. 上記の【合流式下水道について】をご覧ください、その内容がお分かりになりましたか？最もよく当てはまるものを1つお選びください（単一回答）。

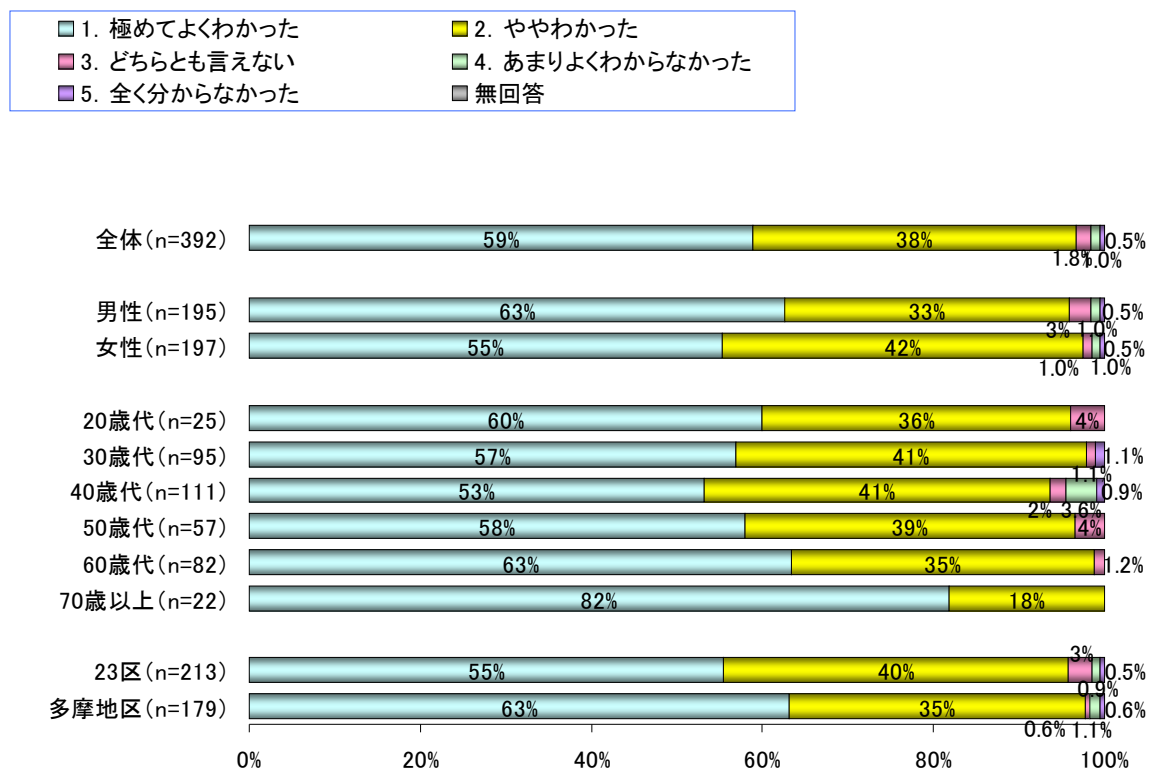
図 1-7 「合流式下水道」解説の理解度



※理解度：ここでは、合流式下水道の解説に対する理解状況について、「極めてよくわかった」を5点、「ややわかった」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「あまりよくわからなかった」を2点、「全くわからなかった」を1点とした時の平均値を「理解度」と定義した。

図 1-8 「合流式下水道」解説の理解状況

Q3: 合流式下水道解説の理解度



1-4. 「合流式下水道」改善策の認知率

- 「合流式下水道」改善策の認知率としては、「雨水浸透ますの設置」が 71.2%と最も高く、次いで「貯留池の整備」の 69.6%が高い。
- 男女別に見ると、総じてどの改善策も男性の認知率が高い。
- 地域別に見ると、23 区では「貯留池の整備」の認知率が 72.8%と最も高く、多摩地区では「雨水浸透ますの設置」の認知率 74.3%が最も高い。
- 年代別に見ると、70 歳以上の「雨水浸透ますの設置」の認知率 100%、および 20 歳代の「雨水の吐口対策」の認知率 84.0%は他の年代と比べて突出して高い。

Q4. あなたは合流式下水道の以下の改善策についてどのくらいご存知ですか？それぞれについて、最もよく当てはまるものを 1 つお選びください（単一回答）。

図 1-9 「合流式下水道」改善策の認知率

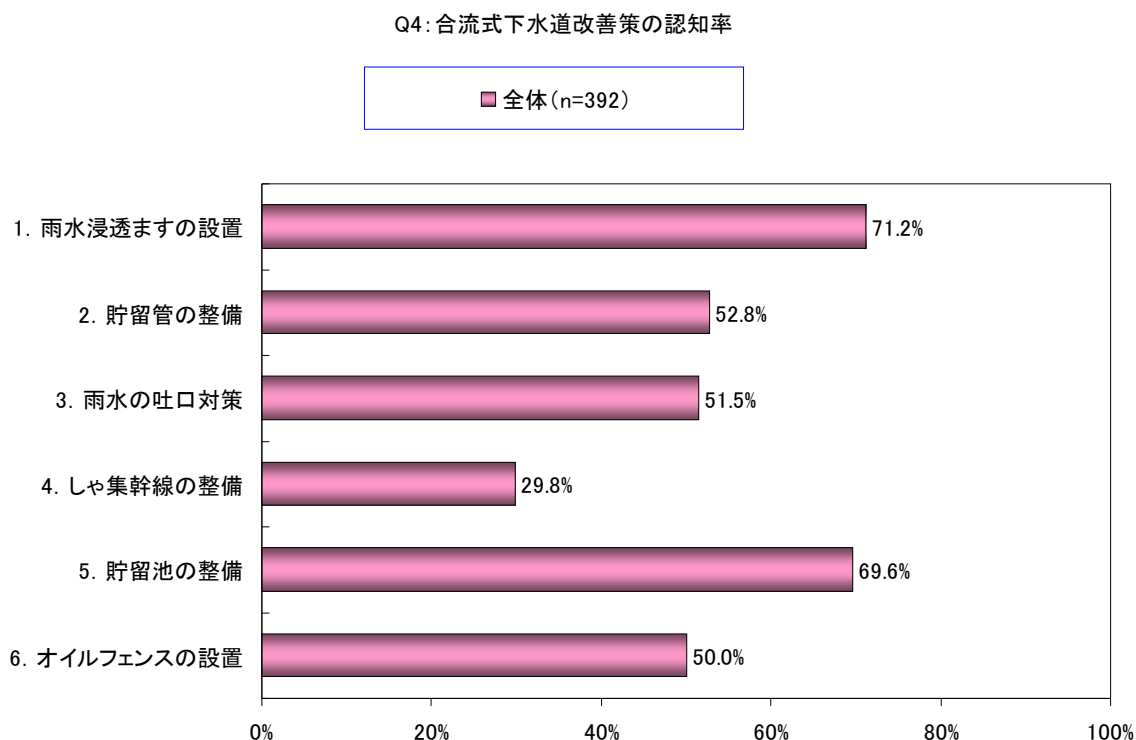


図 1-10 「合流式下水道」改善策の男女別認知率

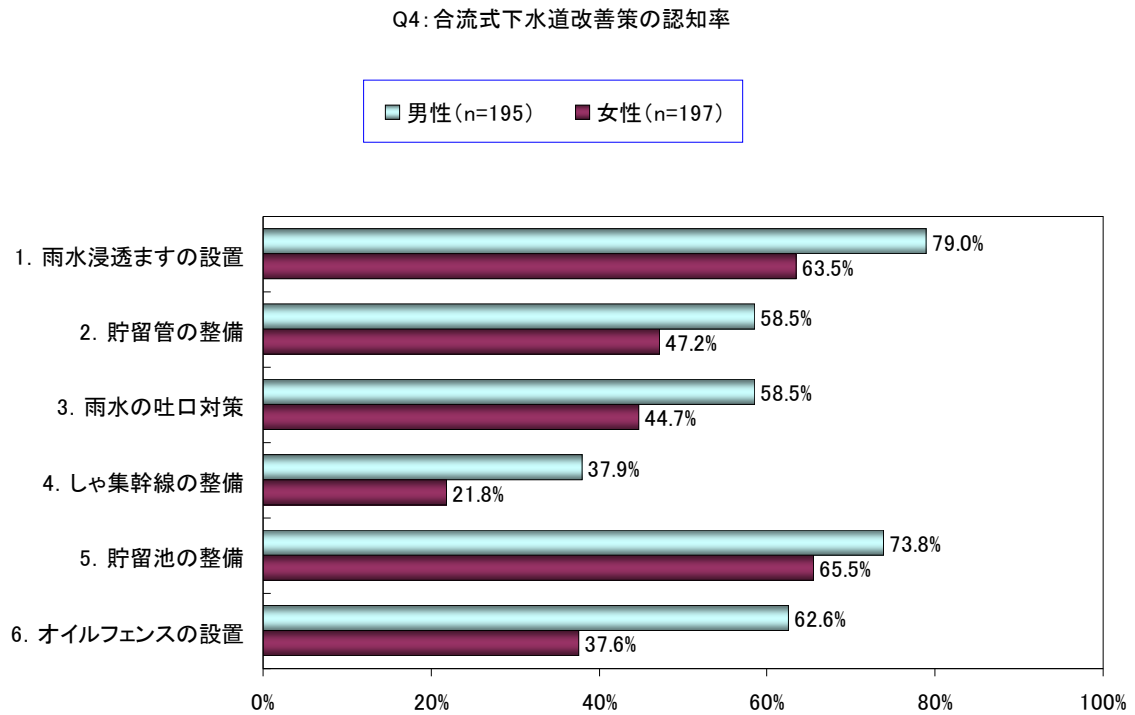


図 1-11 「合流式下水道」改善策の地域別認知率

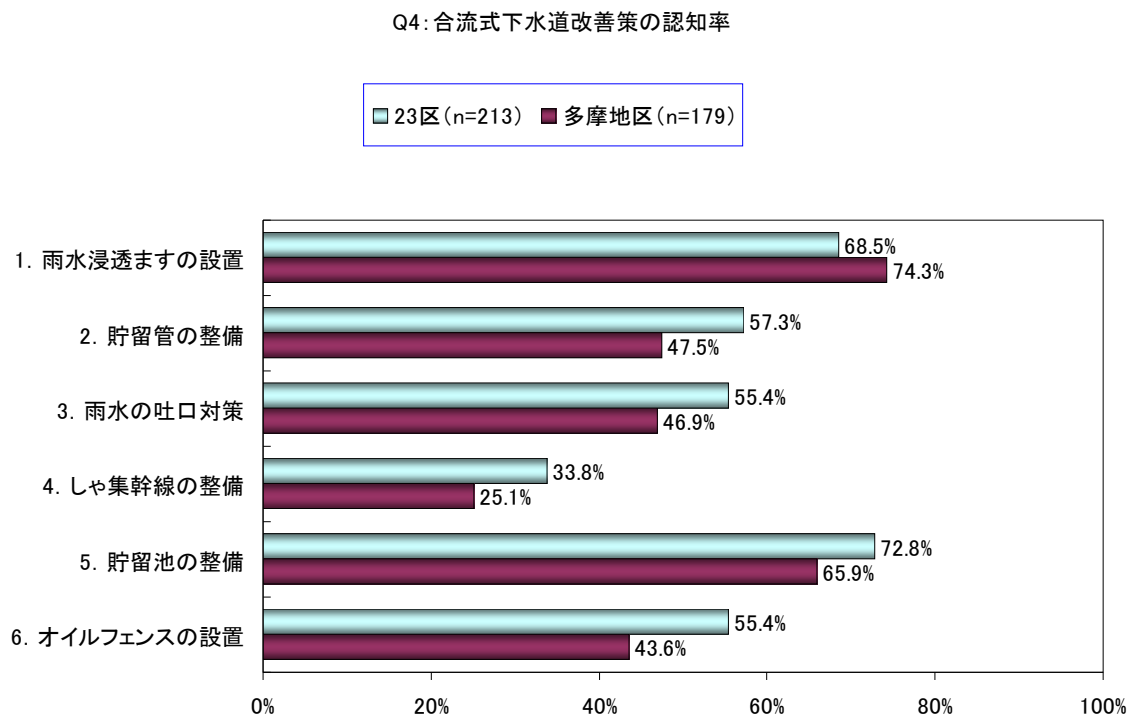


図 1-1 2 「合流式下水道」改善策の年代別認知率

Q4: 合流式下水道改善策の認知率

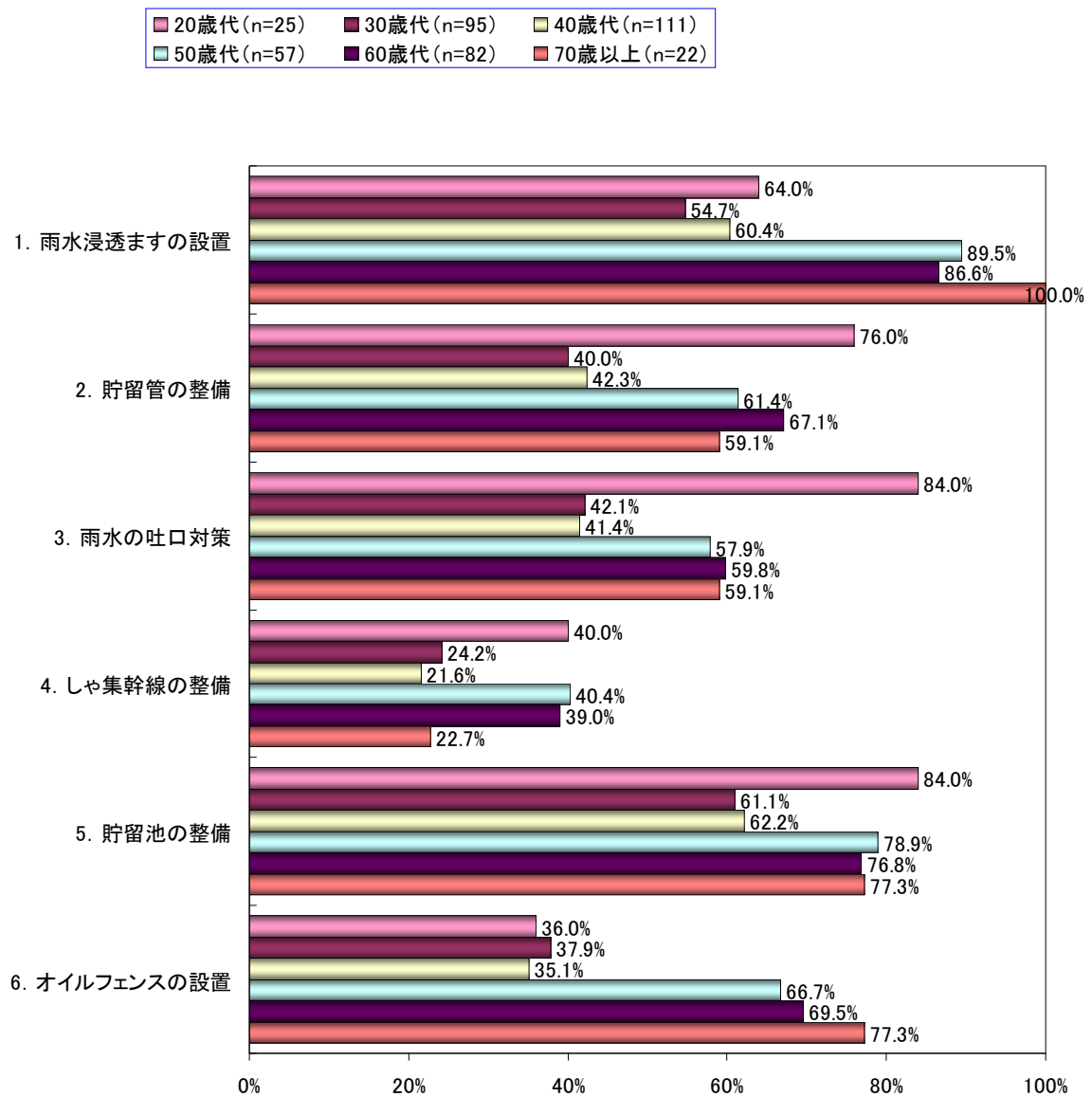
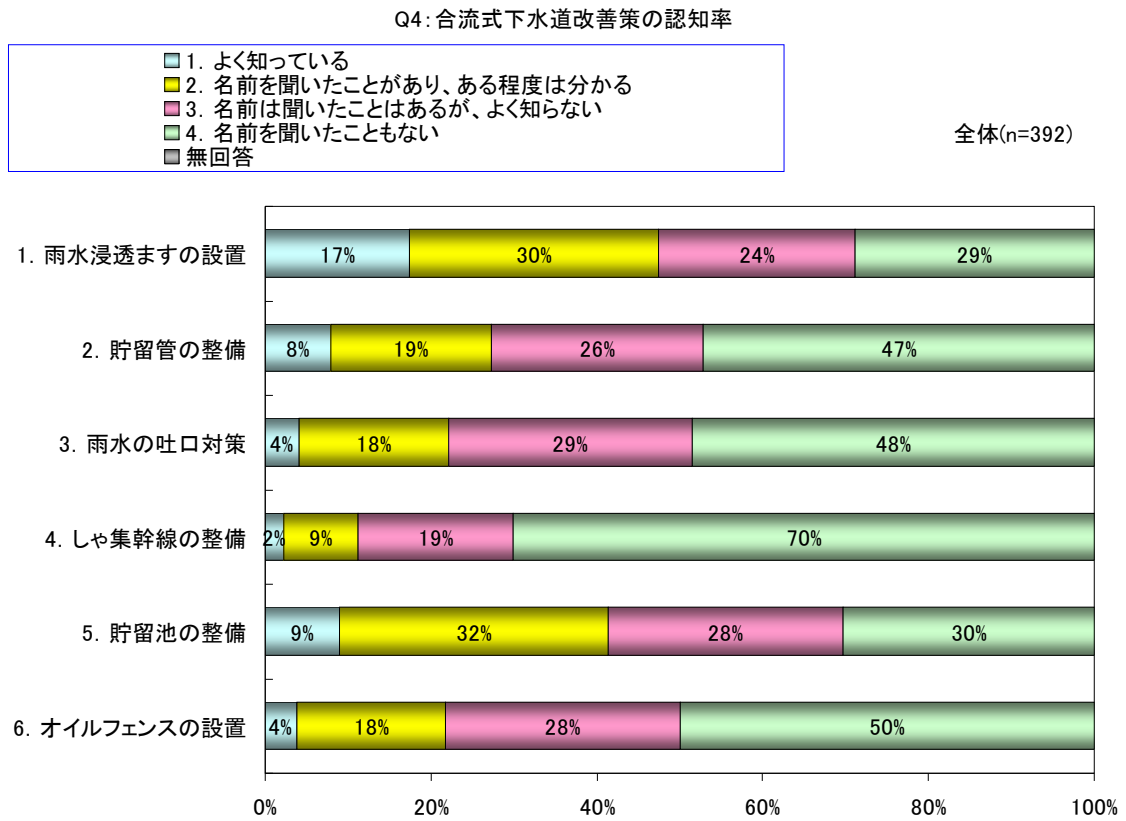


図 1-1 3 「合流式下水道」改善策の認知状況



1-5. 「合流式下水道」改善策解説の理解状況

- 「合流式下水道」改善策の解説については、「雨水浸透ますの設置」が 4.33 と最も理解度が高く、「しゃ集幹線の整備」が 4.07 と理解度が低い。
- 男女別、地域別の理解度には大きな差は見られない。
- 年代別に見ると、70 歳以上の「雨水の吐口対策」の理解度が 3.91、「しゃ集幹線の整備」の理解度が 3.86 と、いずれも 4 を下回る低い理解度になっている。

【合流式下水道の改善（機能強化）】

合流式下水道において、大雨が降ったときに汚水を川や海に流さないようにするために、

①雨水だけを川や海に放流させる

②下水道の処理容量を増やす

③汚水が川や海に放流された時の影響を最小限になるように工夫をする

などの改善策を施す必要があります。

下図に示す「合流式下水道の改善イメージ」に具体的な改善策が掲載されています。

【1 雨水浸透ますの設置】

宅地内に降った雨水を地下に浸透させることで、下水道管に流入する雨水量を削減する。

【2 雨水吐口対策】

下水道管内にごみや白色固形物（オイルボール）を流出させない装置を設置することで、川や海的美観を確保する。

【3 貯留管の整備】

下水を一時的に貯留する施設（管）を整備することで、雨天時の下水放流量を削減する。

【4 しゃ集幹線の整備】

雨天時の下水をより多く水再生センターに送水することで、川や海に放流される汚濁物質の量を減らす。

【5 貯留池の整備】

下水を一時的に貯留する施設（池）の整備により、水再生センター等で雨天時の下水放流量を削減する。

【6 オイルフェンスの設置】

川や海へごみや白色固形物（オイルボール）の流出を抑制（後に回収）する。



- Q5. 上記の【合流式下水道の改善（機能強化）】の説明文と図をご覧いただいて、それぞれの改善策の内容がおわかりになりましたか？それぞれについて、最もよく当てはまるものを1つお選びください（単一回答）。

図 1-1 4 「合流式下水道」改善策解説の理解度

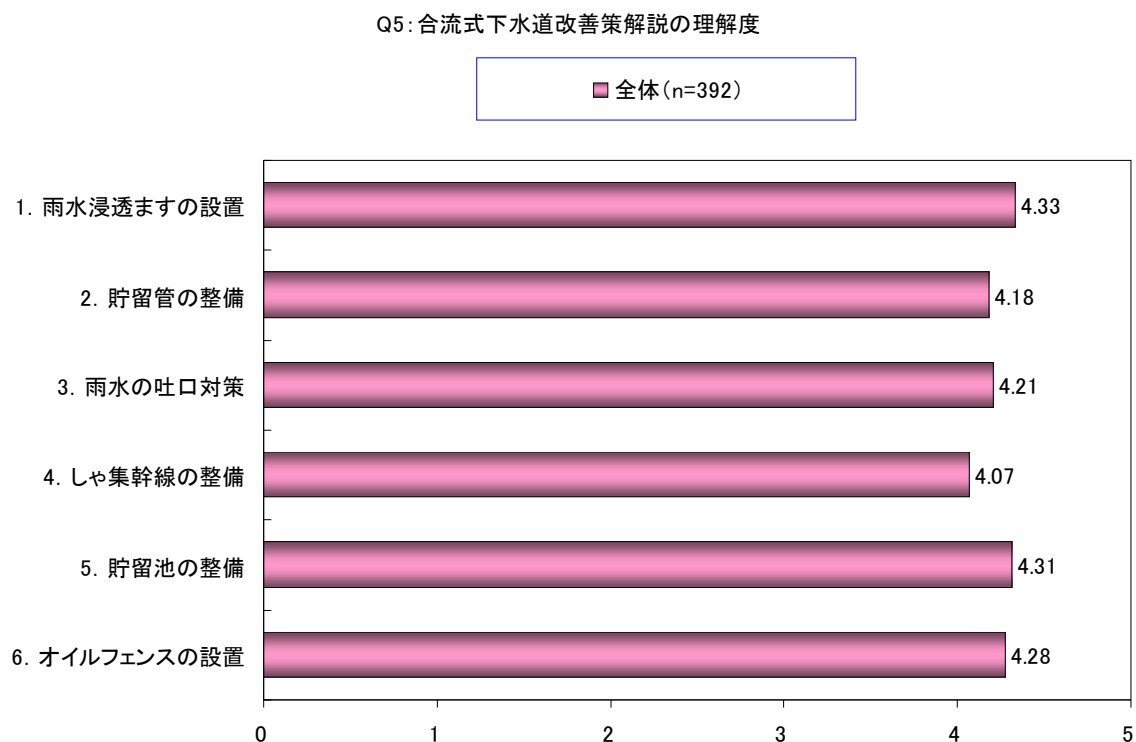


図 1-15 「合流式下水道」改善策解説の男女別理解度

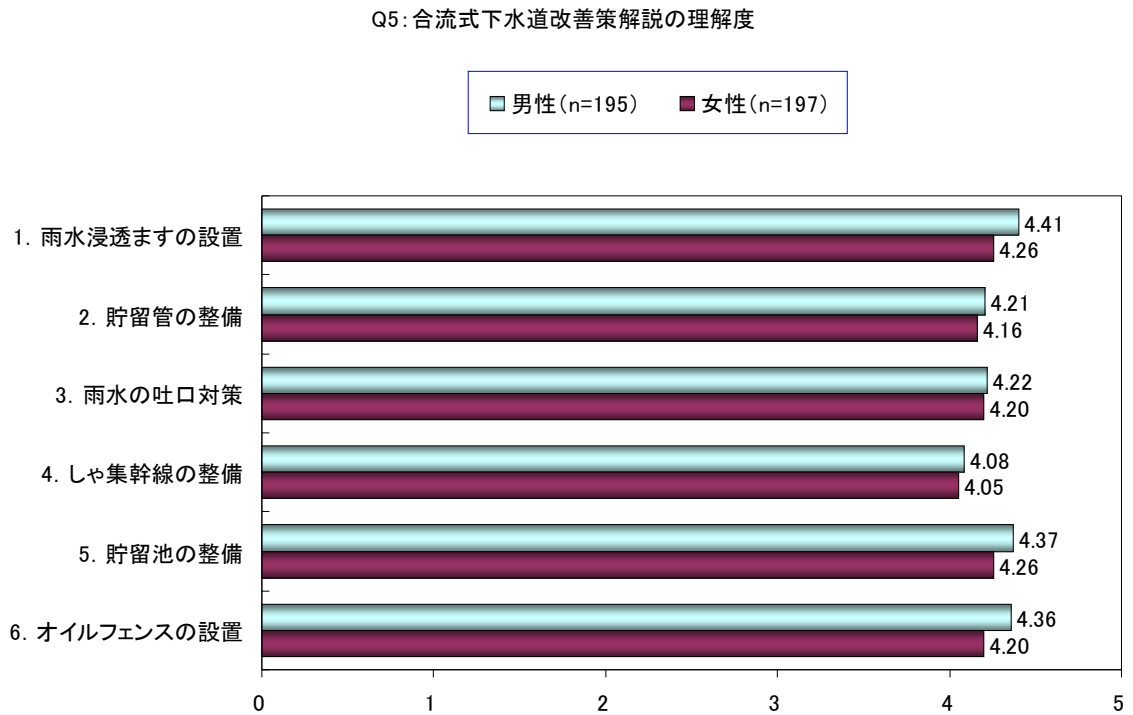


図 1-16 「合流式下水道」改善策解説の地域別理解度

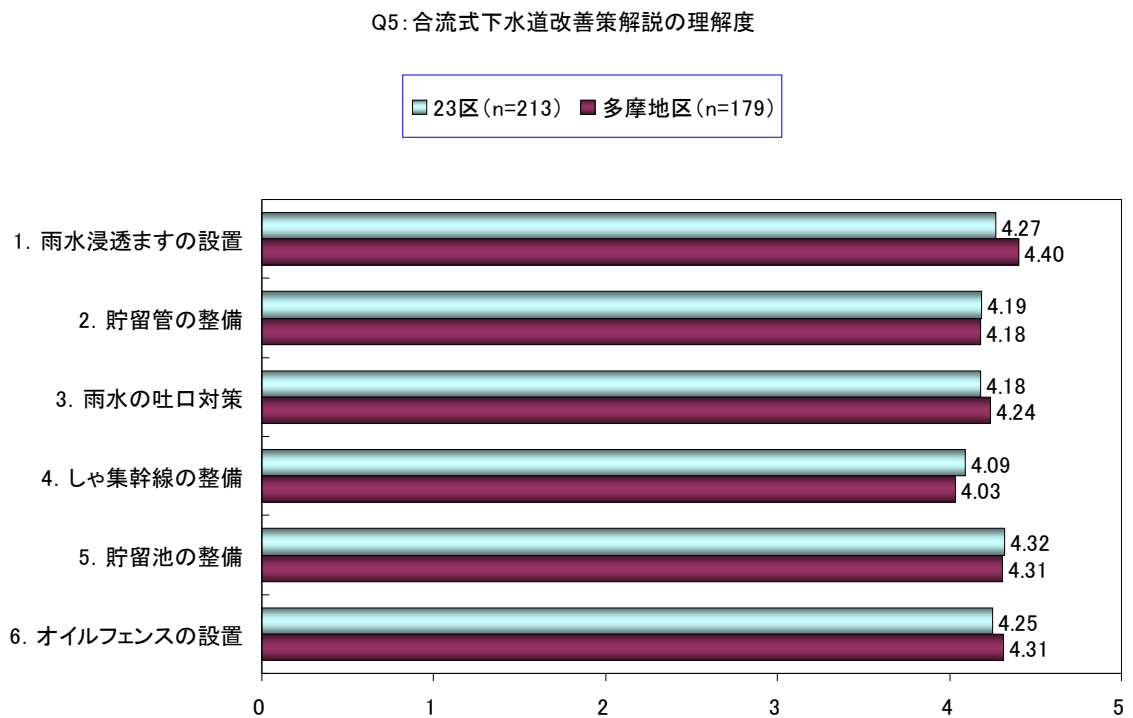


図 1-1 7 「合流式下水道」改善策解説の年代別理解度

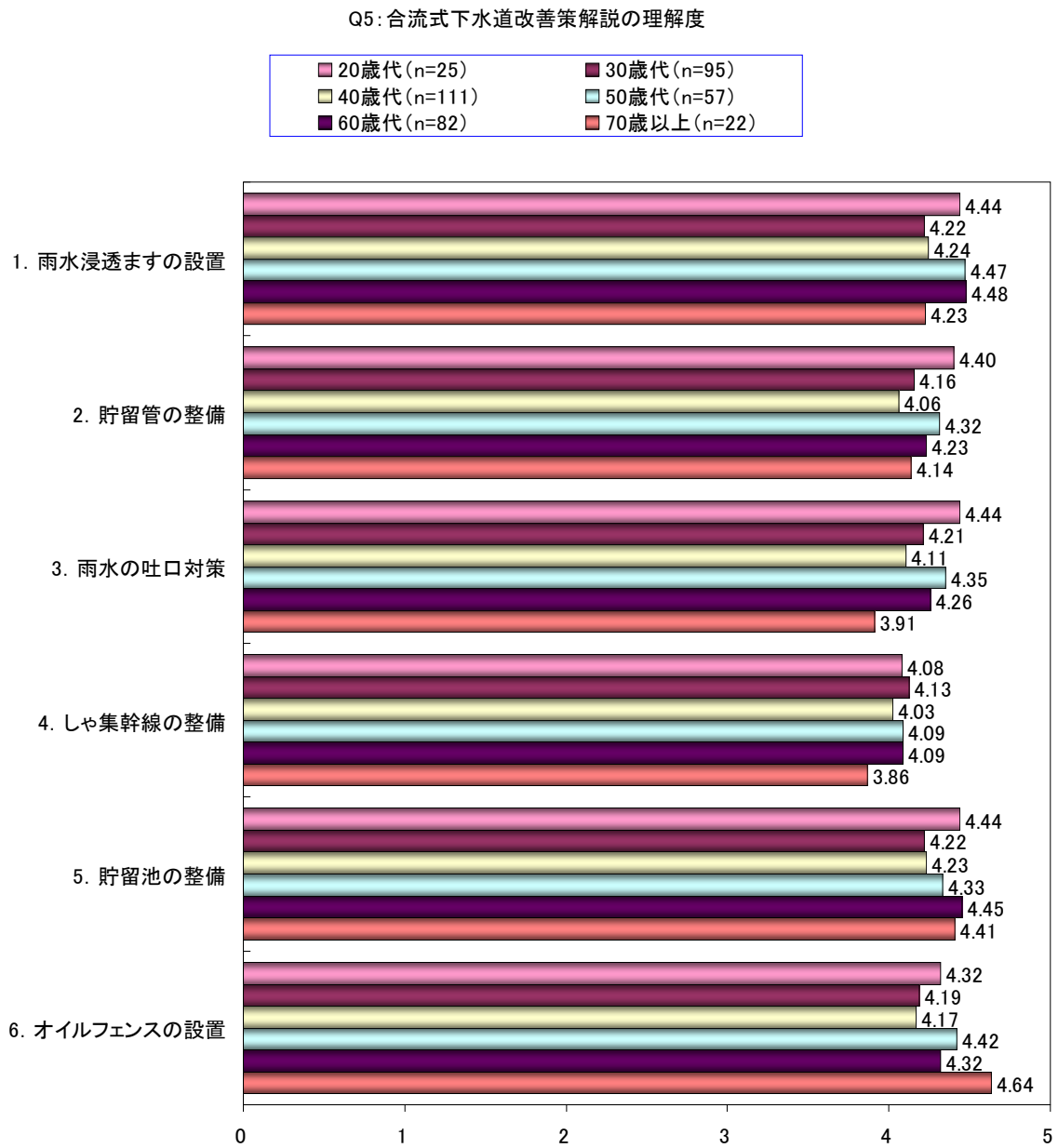
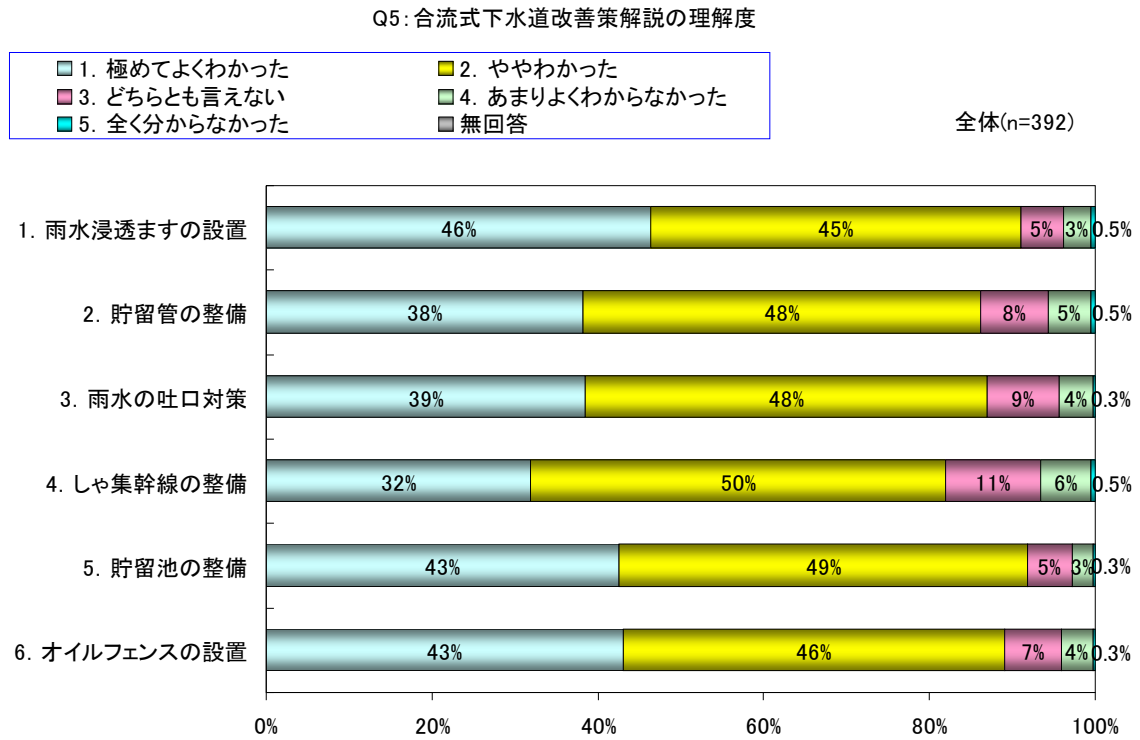


図 1-18 「合流式下水道」改善策解説の理解状況



1-6. 「合流式下水道」改善の有効性評価

- 「合流式下水道」改善の有効性評価は 4.25 で、「やや有効」以上の回答率は 88%である。
- 男女別に見ると、女性の評価が 4.34 と男性の評価 4.16 より 0.18 高い。
- 年代別に見ると、20 歳代の評価の 4.40 が最も高く、70 歳以上の評価の 4.18 が最も低い。
- 地域別には大きな差は見られない。

Q9. あなたは「合流式下水道の改善（機能強化）」が環境保全にどのくらい有効であると評価しますか？最もよく当てはまるものを 1 つお選びください（単一回答）。

図 1-19 「合流式下水道」改善の有効性評価

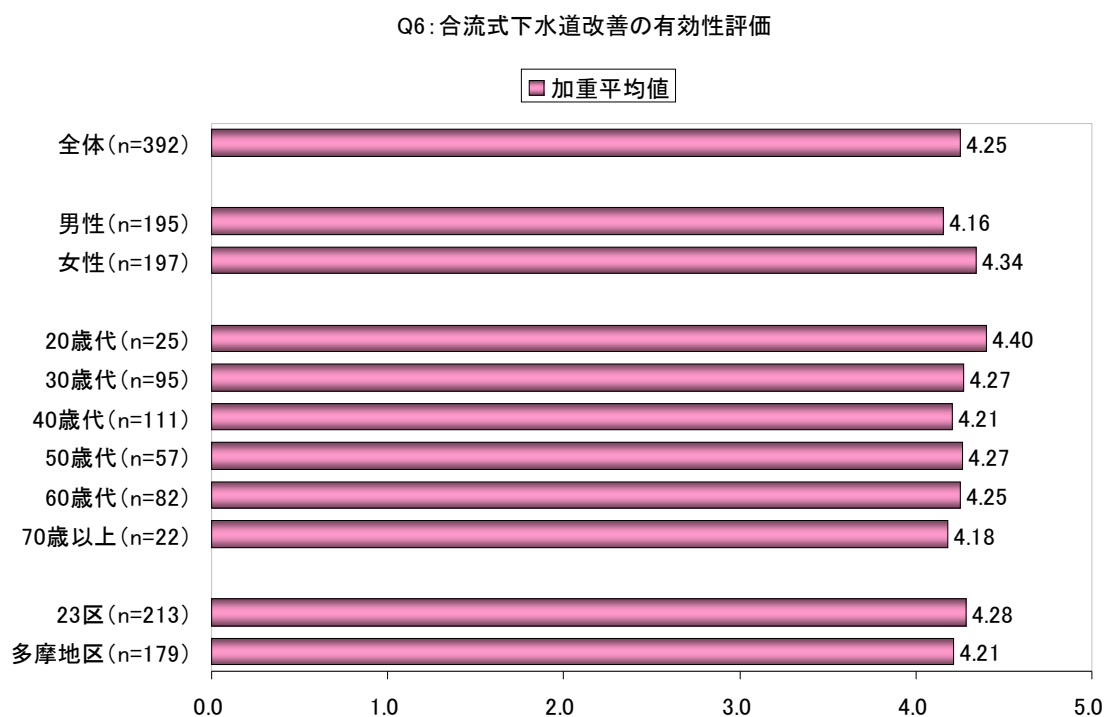
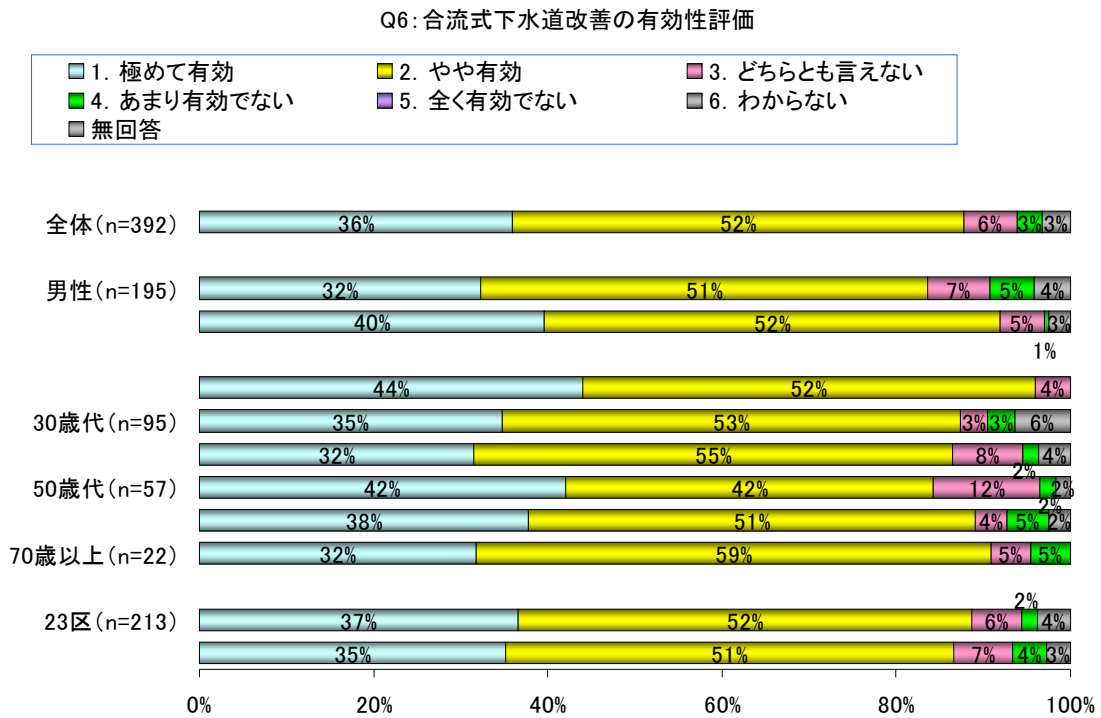


図 1-20 「合流式下水道」改善の有効性評価状況



1-7. 「合流式下水道」に対する関心度の変化

- 「合流式下水道」に対する関心度の変化は 4.19 で、「やや関心が高まった」以上の回答率は 92%である。
- 男女別、地域別に大きな差は見られない。
- 年代別に見ると、70 歳以上が 4.59 と関心を高めている一方、30 歳代、40 歳代はそれぞれ 4.06、4.05 と、他の年代と比較すると関心が高まっていない。

Q7. このアンケートで「合流式下水道に関する情報」を得て、合流式下水道に対する関心がどのようになりましたか？最もよく当てはまるものを1つお選びください（単一回答）。

図 1-21 「合流式下水道」に対する関心度の変化

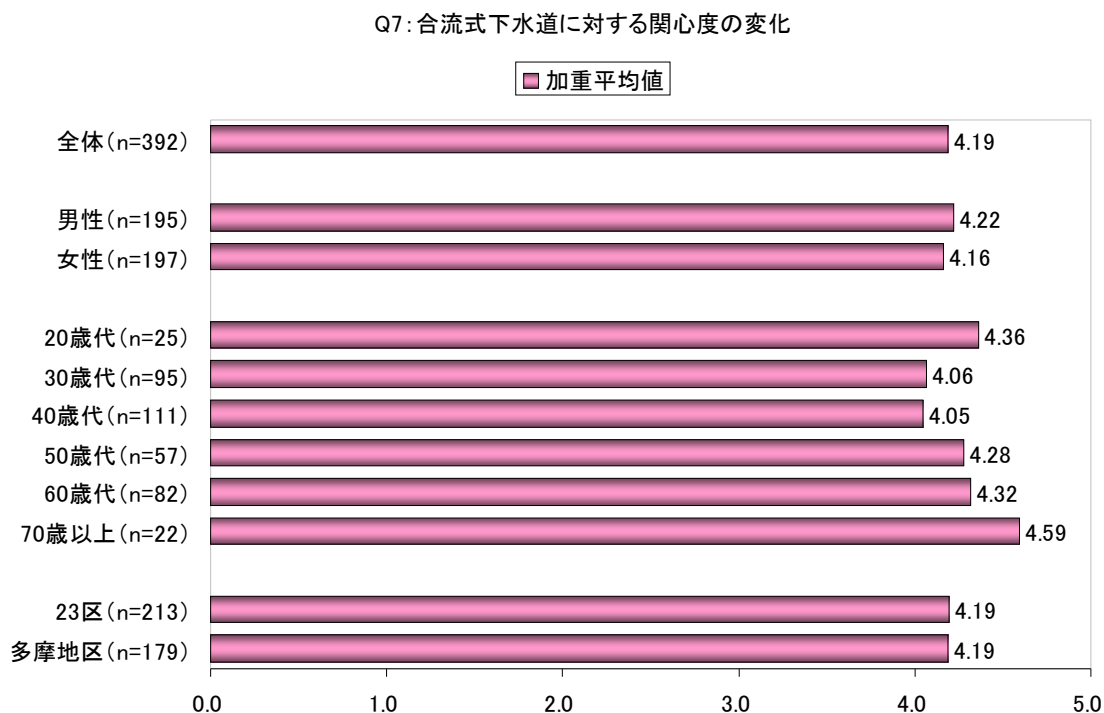
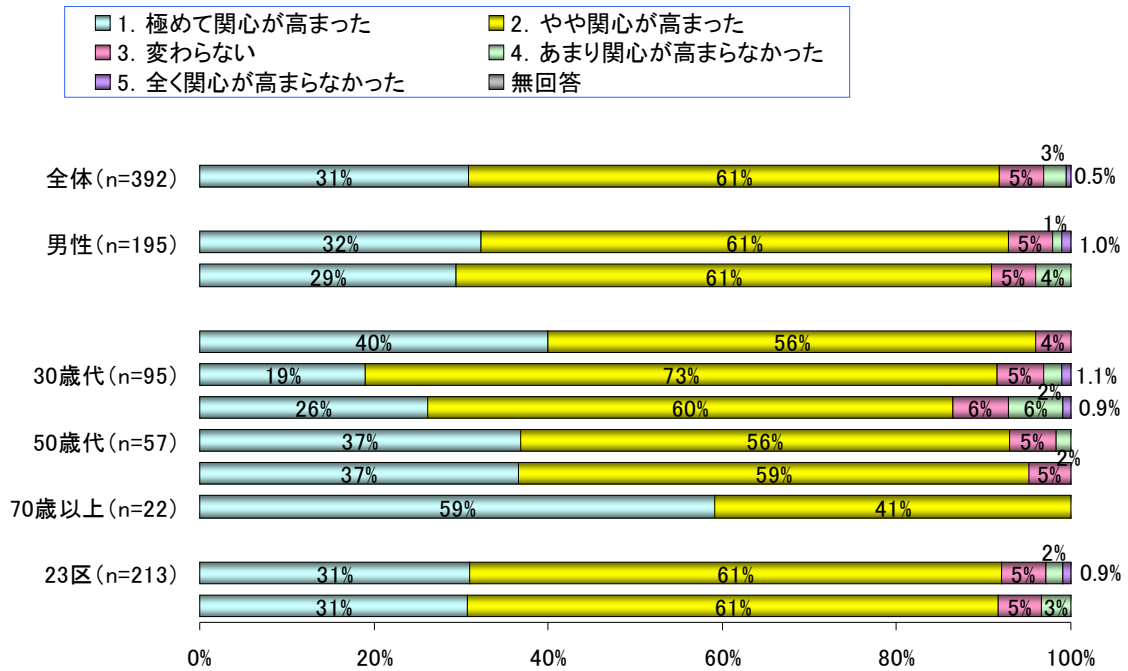


図 1-2 2 「合流式下水道」に対する関心度の変化状況

Q7: 合流式下水道に対する関心度の変化

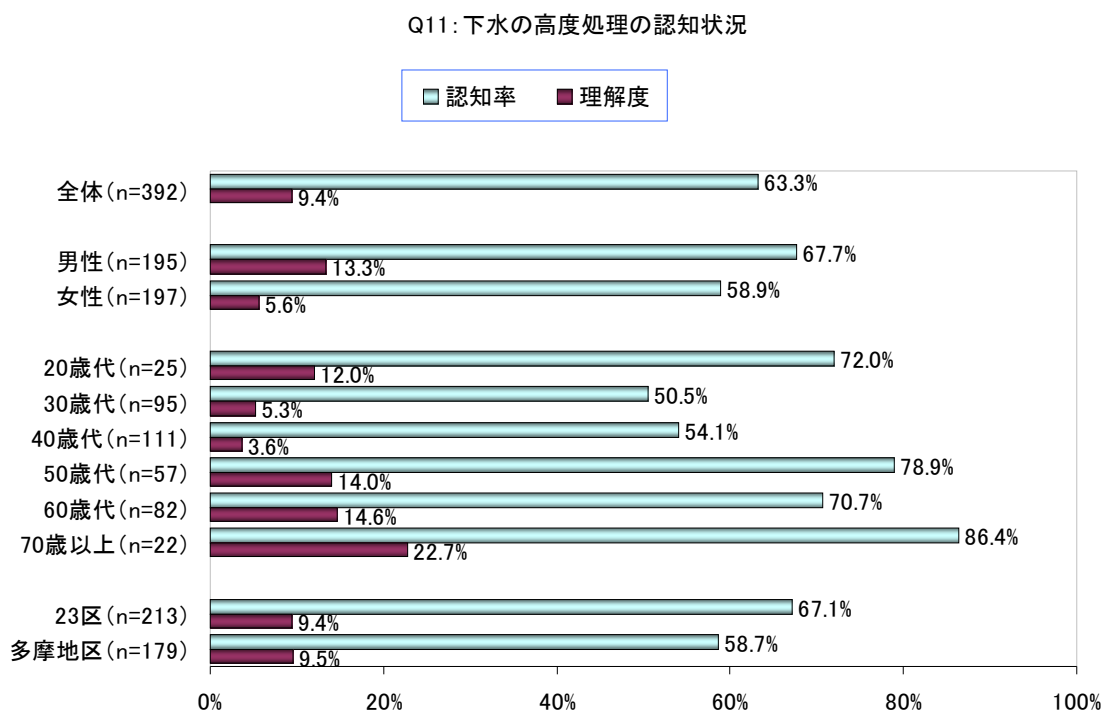


2-1. 「下水の高度処理」の認知・理解状況

- 「下水の高度処理」の認知率は63.3%、理解度は9.4%である。
- 認知率、理解度ともに男性の方が女性より高い。
- 年代別に見ると70歳以上が認知率、理解度ともに最も高い。
- 地域別に見ると認知率は23区が多摩地区より高い。

Q11. あなたは「下水の高度処理」についてどのくらいご存知ですか？最もよく当てはまるものを1つお選びください。（単一回答）。

図2-1 「下水の高度処理」の認知度・理解度

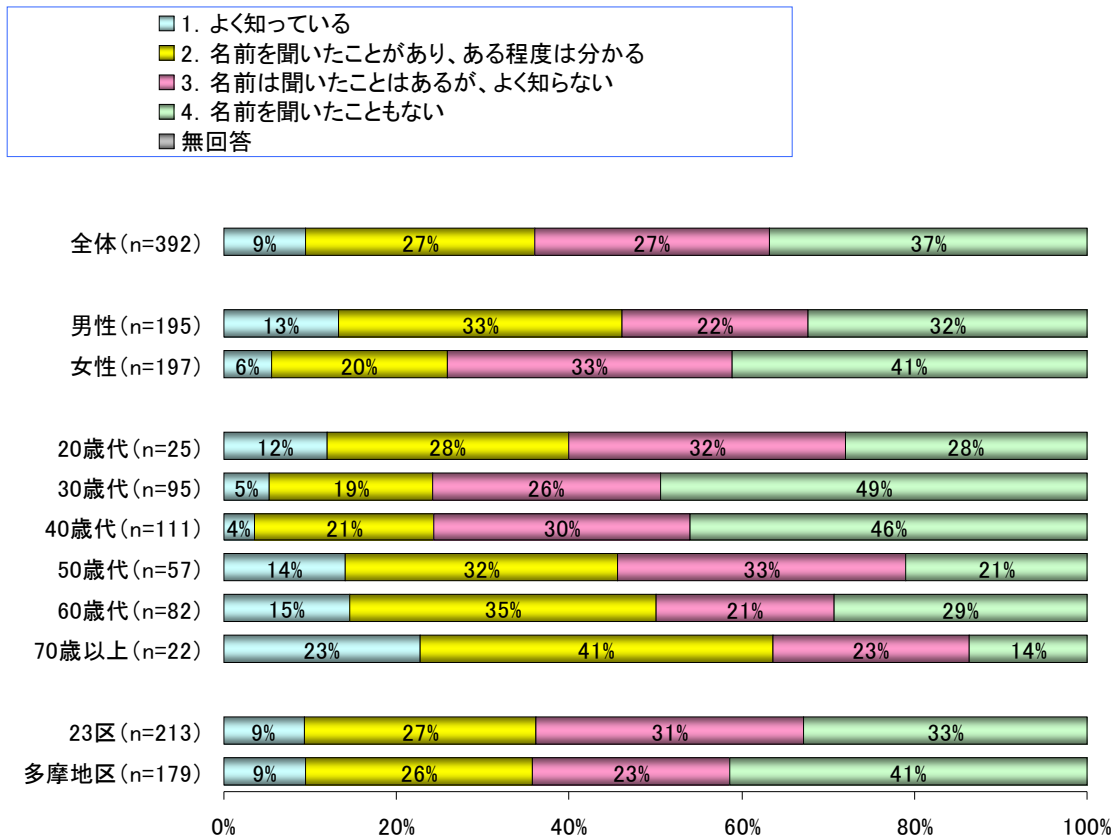


※認知率：下水の高度処理の認知状況について、「よく知っている」、「名前を聞いたことがあり、ある程度は分かる」、「名前を聞いたことはあるが、よく知らない」のいずれかを回答した率を「認知率」と定義した。

※理解度：下水の高度処理の認知状況について、「よく知っている」と回答した率を「理解度」と定義した。

図2-2 「下水の高度処理」の認知・理解状況

Q11: 下水の高度処理の認知状況



2-2. 「下水の高度処理」の認知経路

- 「下水の高度処理」の認知経路については、特定の経路に限定されず分散されている状況にあり、その中では「東京都下水道局の印刷物で知った」というものが21.7%と最も多く、次いで「テレビ番組で知った」(18.6%)、「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」(16.6%)と続く。
- 男女とも、「東京都下水道局の印刷物で知った」が最も多く、男性は23.6%、女性は19.8%であった。
- 地域別に見ると、23区は「東京都下水道局の印刷物で知った」が最も多い(24.9%)が、多摩地区は「東京都下水道局の印刷物で知った」と「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」が同率で最も多く、17.9%であった。
- 年代別に見ても、総じて「東京都下水道局の印刷物で知った」が多いが、20歳代で「テレビ番組で知った」が極めて多く36.0%、70歳以上で「東京都下水道局の施設見学やイベントに参加して知った」が極めて多く40.9%であったことが特徴的であった。

Q12. あなたはどのようにして「下水の高度処理」について知りましたか？当てはまるものをいくつでもお選びください（複数回答）。

図2-3 「下水の高度処理」の認知経路

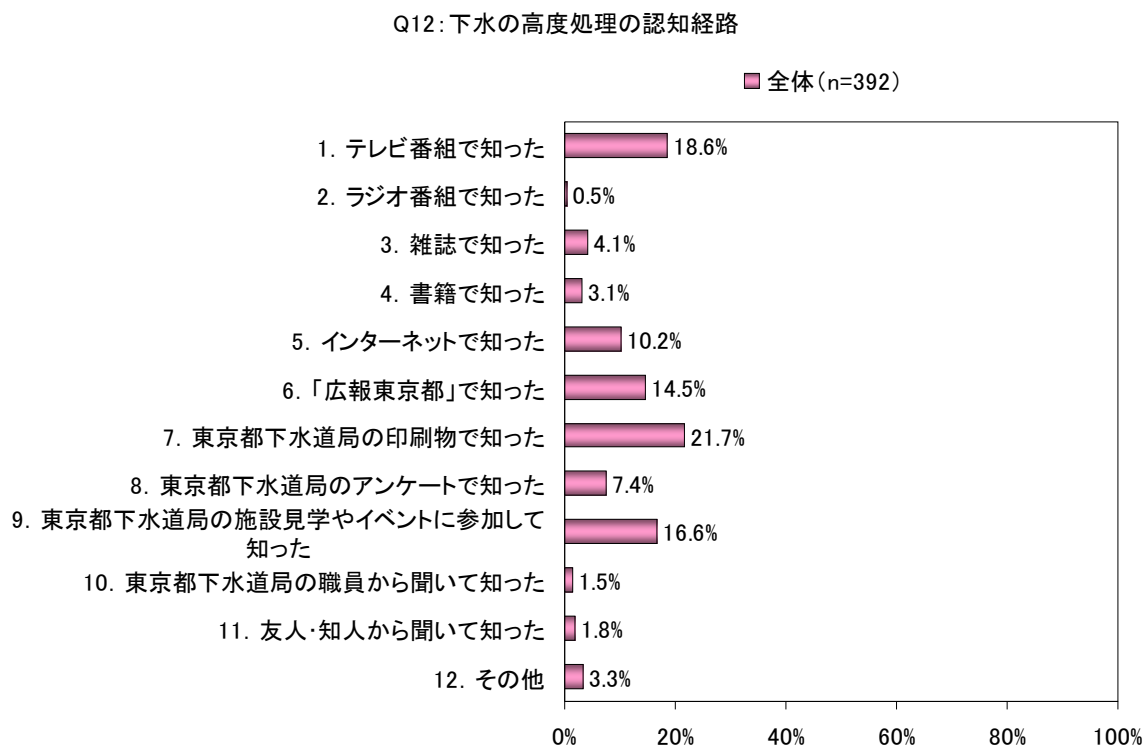


図2-4 「下水の高度処理」の男女別認知経路

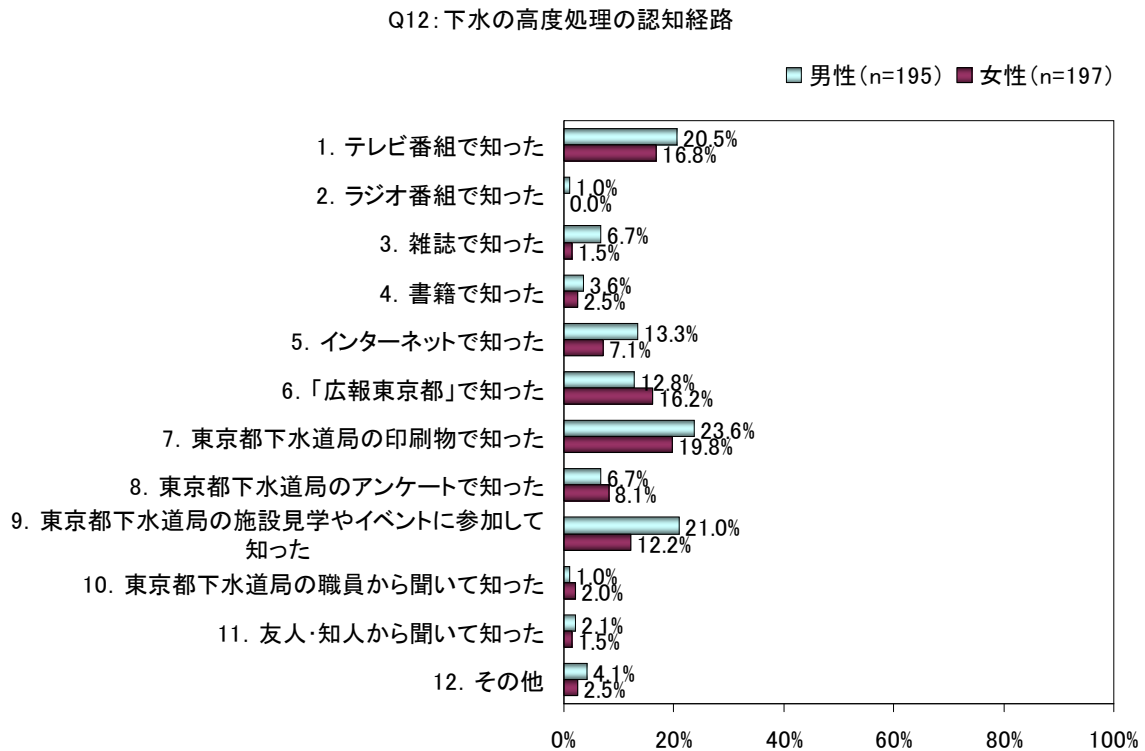


図2-5 「下水の高度処理」の地域別認知経路

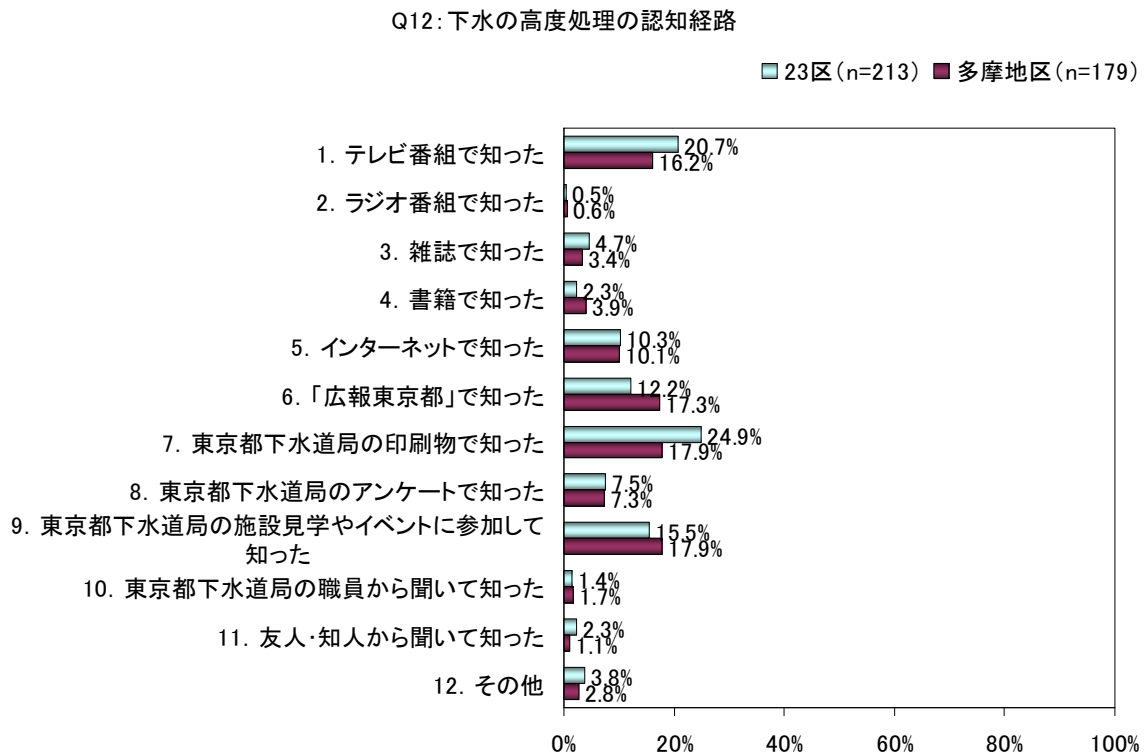
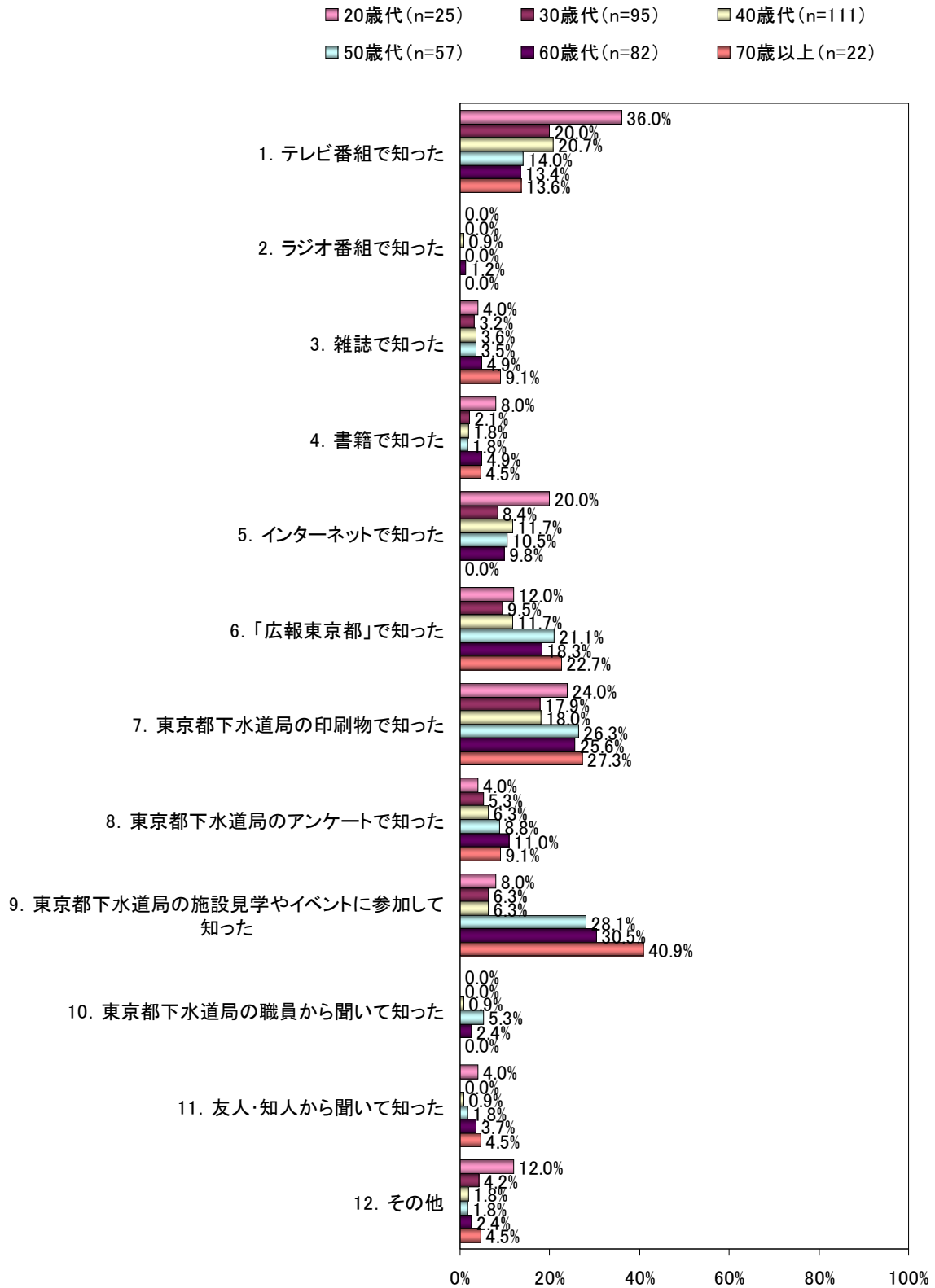


図2-6 「下水の高度処理」の年代別認知経路

Q12: 下水の高度処理の認知経路



2-3. 「下水の高度処理」解説の理解状況

- 「下水の高度処理」の解説に対する理解度は 4.25 であり、「ややわかった」以上の回答率は 91%であった。
- 男女別に見ると、大きな差異は見られない。
- 年代別に見ると、70 歳以上が 4.45 と理解度が高く、40 歳代が 4.05 と最も低い。
- 地域別に見ると、大きな差異は見られない。

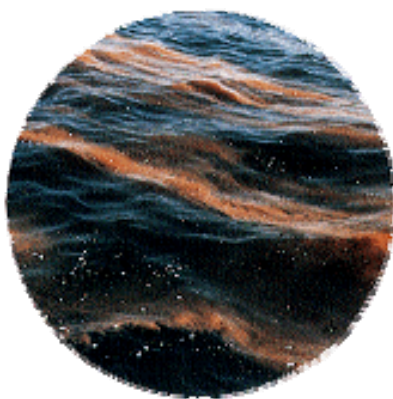
【下水の高度処理について】

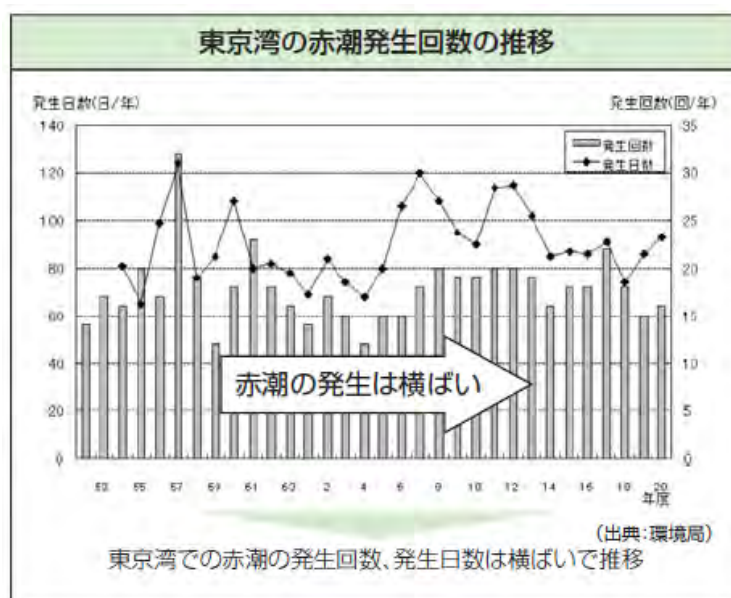
下水道の普及に伴い隅田川などの公共用水域の水質改善は順調に進行している一方で、東京湾では赤潮が年間で 90 日程度発生しており、発生回数や発生日数は近年、横ばいの状況で推移しています。赤潮が発生すると、水辺環境の生態系に悪影響を与えるばかりでなく、水産業にも甚大な被害を与えます。

赤潮が発生する原因はいろいろと考えられますが、川や海に放流される下水処理水に含まれる窒素やりんが、その原因のひとつとされています。水再生センターの現状の設備（処理方法）ではこの窒素やりんを十分に取り除けず、窒素やりんを取り除くには新たな高度処理施設の導入が必要となります。

「都民生活に関する世論調査（平成 21 年度）」によると、「東京湾の水質について関心のある人」は 77%、東京湾の水辺環境をよくするために取組んでほしい事業として、「高度処理施設の整備などの下水道機能の強化」が 45%に及ぶなど、東京湾の水質改善に向けた下水道の役割に対する期待が高まっています。

良好な水辺環境を創出するため、赤潮の発生原因のひとつとされている窒素及びりんを除去する高度処理施設のさらなる導入が検討されています。

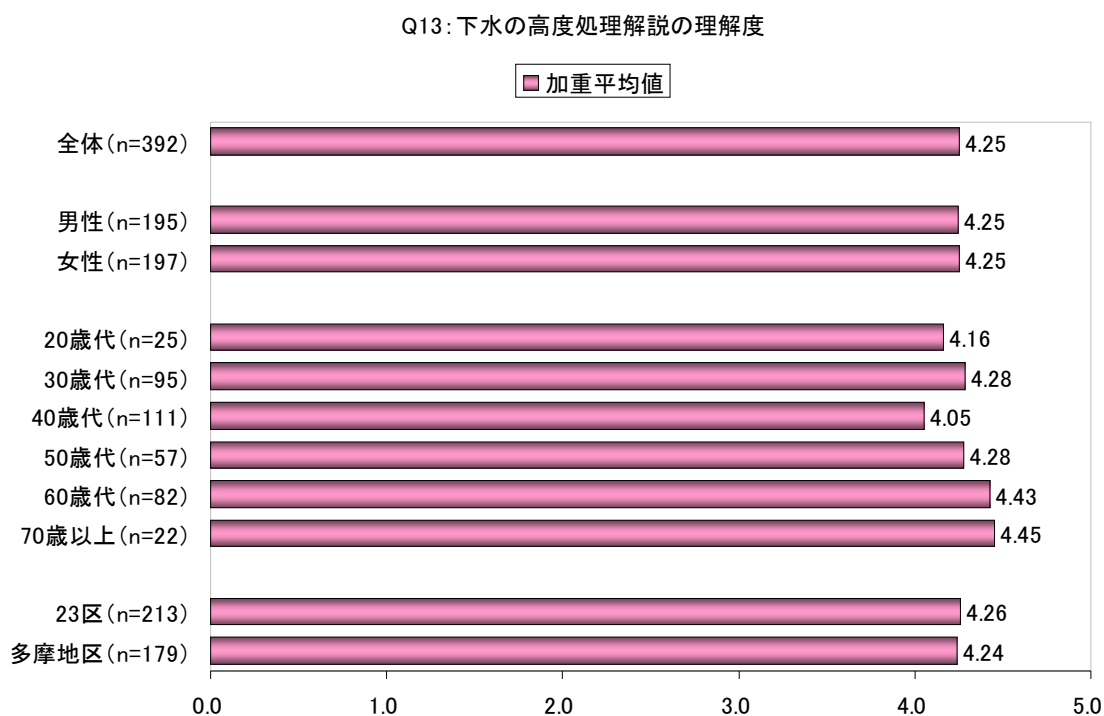




*赤潮とは、東京湾のような閉鎖性の水域において、窒素、リンの負荷が大きいと、外洋との海水の交換が少ないために濃度が高くなることからプランクトンが異常発生し、海水が赤く着色する現象です。赤潮は、海中で汚染や無酸素状態を引き起こして、魚介類などに悪影響を与えることがあります。

Q13. 上記の【下水の高度処理について】をご覧いただき、その内容がお分かりになりましたか？最もよく当てはまるものを1つお選びください（単一回答）。

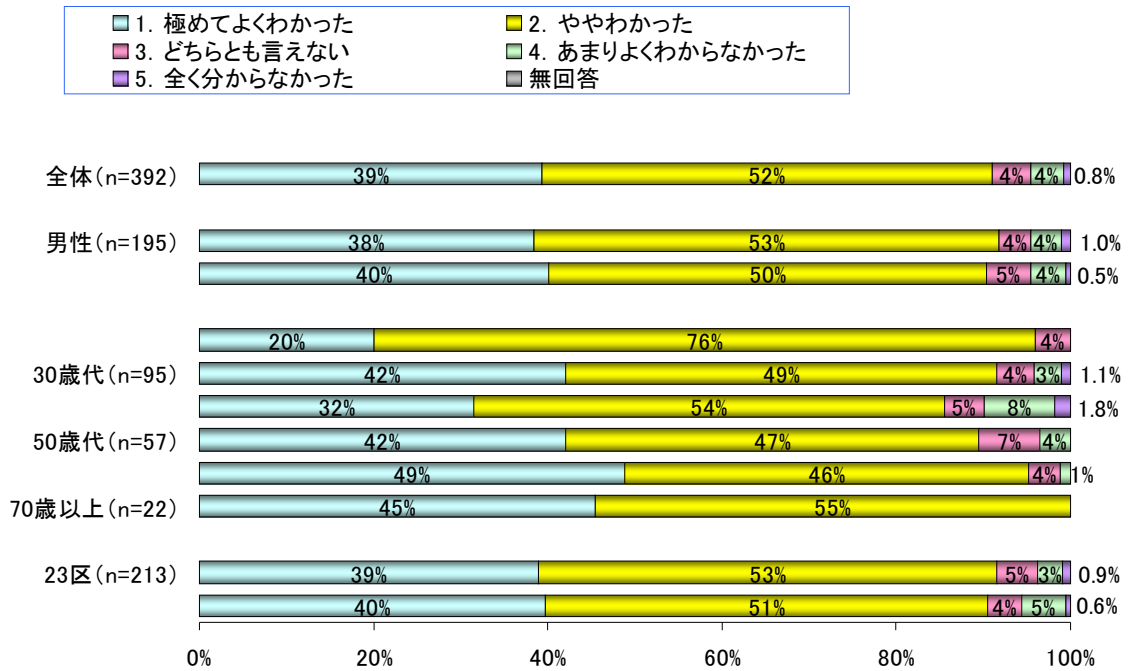
図2-7 「下水の高度処理」解説の理解度



※理解度：ここでは、合流式下水道の解説に対する理解状況について、「極めてよくわかった」を5点、「ややわかった」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「あまりよくわからなかった」を2点、「全く分からなかった」を1点とした時の平均値を「理解度」と定義した。

図2-8 「下水の高度処理」解説の理解状況

Q13: 下水の高度処理解説の理解度



2-4. 「下水の高度処理」推進の有効性評価

- 「下水の高度処理」推進の有効性評価は 4.41 で、「やや有効」以上の回答率は 90% である。
- 男女別に見ると、女性の評価が 4.46 と男性の評価 4.36 より 0.10 高い。
- 年代別に見ると、60 歳代の評価の 4.55 が最も高く、40 歳代の評価の 4.31 が最も低い。
- 地域別には大きな差は見られない。

Q14. あなたは「下水の高度処理の推進」が環境保全にどのくらい有効であると評価しますか？最もよく当てはまるものを 1 つお選びください（単一回答）。

図 2-9 「下水の高度処理」推進の有効性評価

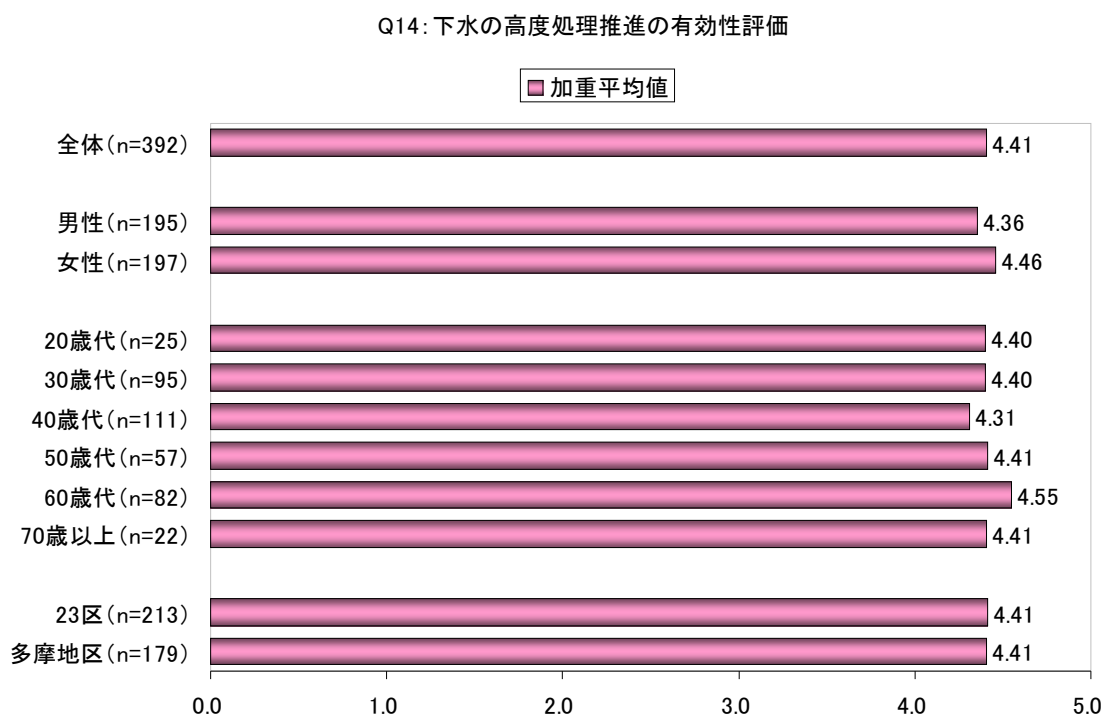
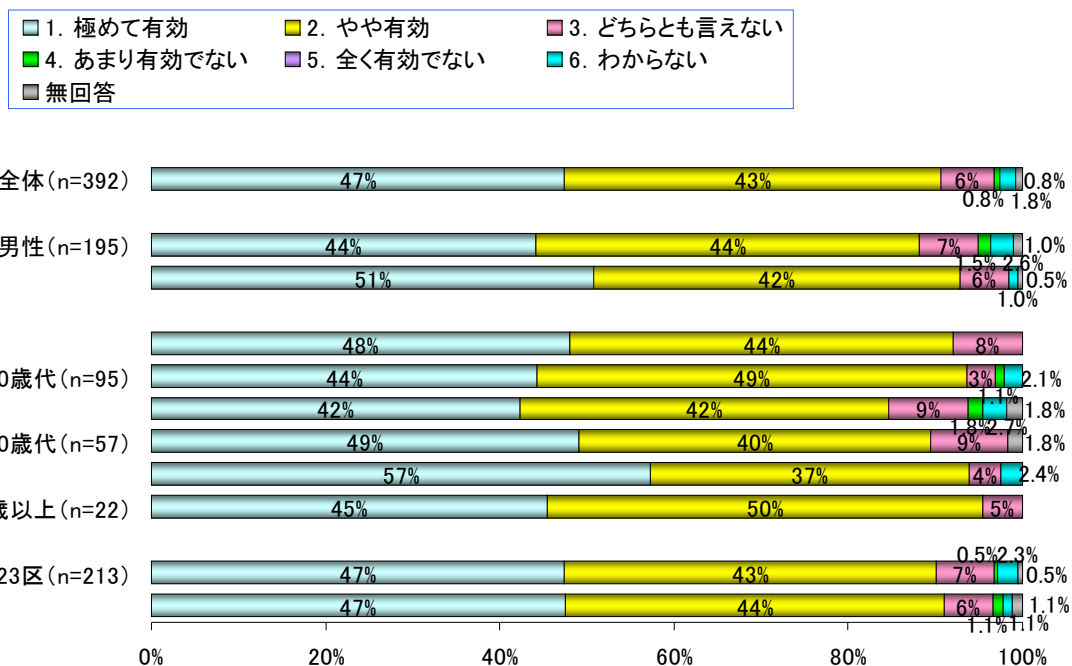


図2-10 「下水の高度処理」推進の有効性評価状況

Q14: 下水の高度処理推進の有効性評価



2-5. 「下水の高度処理」に対する関心度の変化

- 「下水の高度処理」に対する関心度の変化は 4.20 で、「やや関心が高まった」以上の回答率は 89%である。
- 男女別に見ると、女性の関心度の変化は 4.26 と男性の 4.14 より 0.12 高い。
- 年代別に見ると、70 歳以上が 4.55 と関心を高めている一方、30 歳代は 4.03 と低い。
- 地域別には大きな差は見られない。

Q15. このアンケートで「下水の高度処理に関する情報」を得て、高度処理に対する関心がどのようになりましたか？最もよく当てはまるものを1つお選びください（単一回答）。

図2-11 「下水の高度処理」に対する関心度の変化

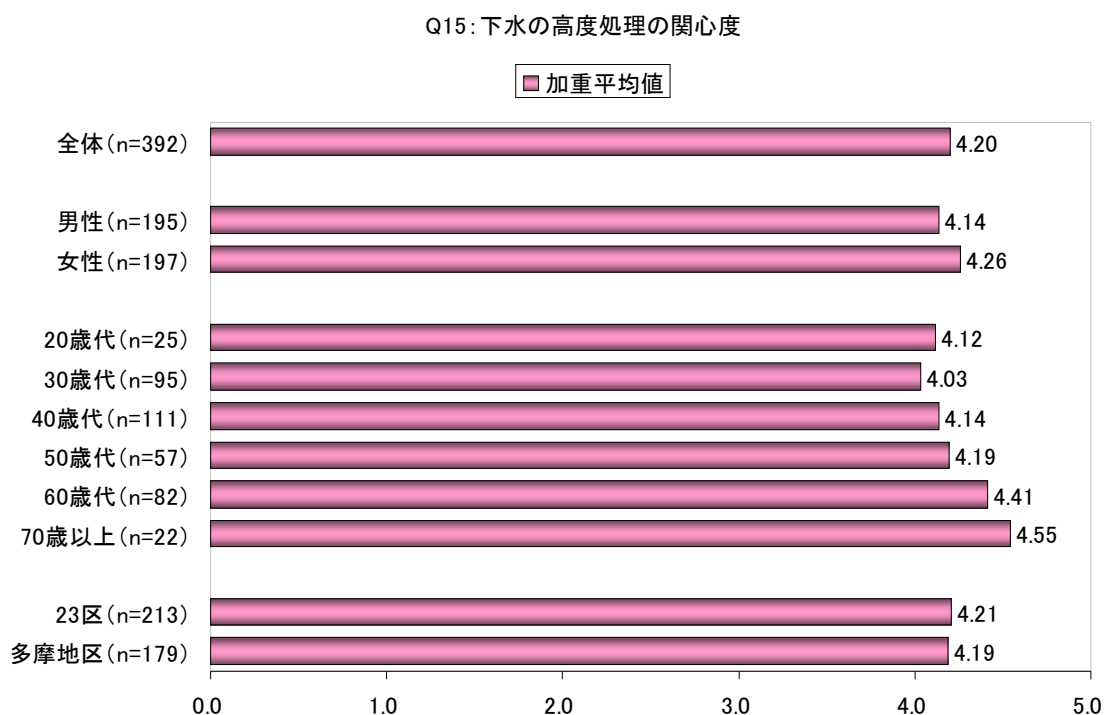
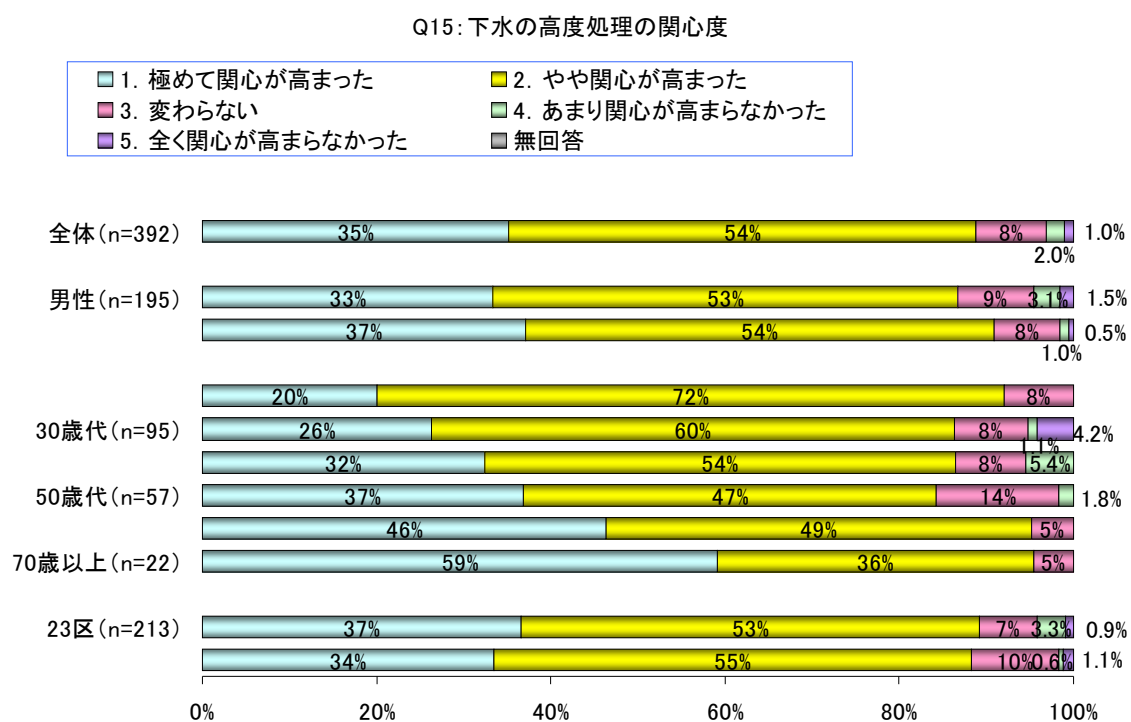


図2-12 「下水の高度処理」に対する関心度の変化状況



3-1. CVM（仮想評価法）について

- 環境価値算出方法としてCVMが広く活用されている。
- CVMにおいては、二項選択方式のダブルバウンド方式が一般化している。
- 本アンケートでは、CVMの二項選択・ダブルバウンド方式により「合流式下水道」改善事業および「下水の高度処理」推進事業の価値を算出する。

環境を保全するに当り、環境の価値を知ることは極めて重要である。環境の価値を評価する手法は、大別すると顕示選好法(revealed preferences:RP)と表明選好法(stated preferences:SP)の2種類がある。顕示選好法とは、人々の経済行動から得られるデータをもとに間接的に環境の価値を評価する手法である。顕示選好法には、代替法、トラベルコスト法、そしてヘドニック法が含まれる。もう一つの表明選好法とは、人々に環境の価値を直接尋ねることで環境の価値を評価する手法である。表明選好法には、仮想評価法(Contingent Valuation Method:CVM)、仮想行動法(Contingent Behavior:CB)、仮想ランキング法(Contingent Ranking:CR)、コンジョイント分析(Conjoint Analysis:CA)がある(栗山 1997)。

CVMは環境価値算出の手法の一つで、アンケートを利用して、環境が改善されあるいは破壊された状態を回答者に説明する。そして、この環境改善や環境破壊に対して最大支払っても構わない金額や少なくとも補償の必要な金額を直接たずね、その金額から環境の価値を評価する(栗山 1997)。

CVMは、他の手法より評価対象が極めて広いことが特徴で、広く利用されているが、一方で、質問方法等によるバイアス(回答のゆがみ)が発生しやすいという問題点もある。

CVMの質問方法には、自由回答方式、付値ゲーム方式、支払カード方式、二項選択方式などがある。

表3-1 CVMの質問方法

名称	自由回答方式	付値ゲーム方式	支払カード方式	二項選択方式
内容	自由に金額を記入してもらう。	市場のセリのようにして金額を決定。	選択肢の中から金額を選択してもらう。	金額を回答者に提示してYESまたはNOで回答してもらう。
特徴	無回答が多くなる。	回答に時間を要する。 最初の提示額の影響を受ける。	提示した金額の範囲が回答に影響する。	回答者が答えやすくバイアスが比較的少ない。

出所：栗山 1997

二項選択方式は、最も単純な質問形式であり、「X円以上支払う意思はあるか」という質問を行い、回答者はこれにYES／NOで答える。二項選択方式は回答者が最も回答しやすく、かつバイアスが少ない非常にすぐれた質問形式であり、今日では頻繁に用いられている。また、最初の提示額に対する回答の後、さらにもう一度金額を提示するダブルバウンド方式が最近はよく用いられている。ダブルバウンド方式では、賛成と答えた回答者には、さらに高い金額を提示し、逆に反対と答えた回答者には低い金額を提示して、賛成か反対かを再度たずねる。ダブルバウンド方式は、評価額の信頼区間が狭まるため、シングルバウンドよりも統計的効率性が高まり信頼性が改善されると言う利点を持っている（栗山 1997）。

前述の環境価値算出の流れを汲み、本アンケートでは二項選択・ダブルバウンド方式のCVMにより、「合流式下水道」改善事業および「下水の高度処理」推進事業の価値を算出する。

なお、本アンケートでは、最初に提示する金額をT1、T1に賛成した時の二度目の提示額をTU、逆にT1に反対した時の二度目の提示額をTLとすると、以下の10パターンをランダムに回答者に提示している。

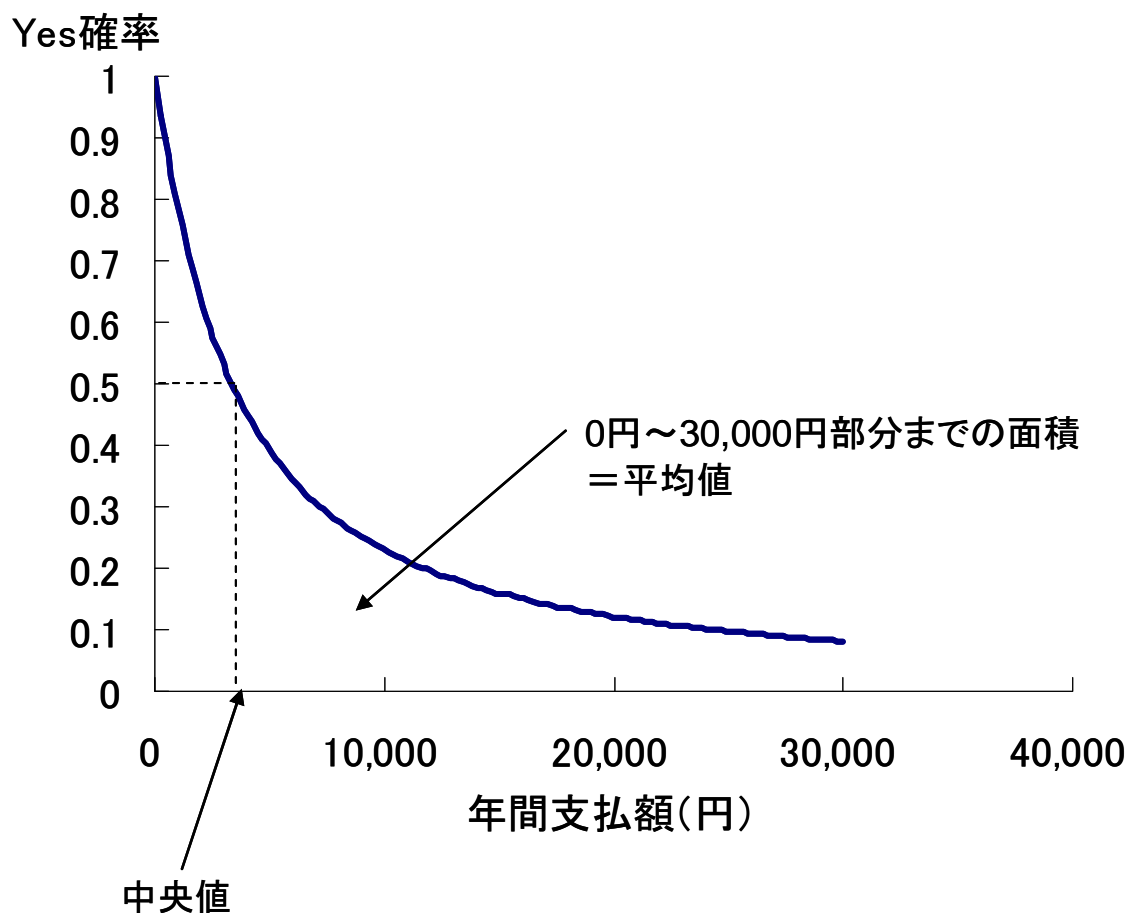
表3-2 提示金額表とパターン別回答数・回答構成比

パターン	T1	TU	TL
1	300 円（月額約 25 円）	500 円（月額約 42 円）	100 円（月額約 8 円）
2	500 円（月額約 42 円）	800 円（月額約 67 円）	300 円（月額約 25 円）
3	800 円（月額約 67 円）	1,000 円（月額約 83 円）	500 円（月額約 42 円）
4	1,000 円（月額約 83 円）	2,000 円（月額約 167 円）	800 円（月額約 67 円）
5	2,000 円（月額約 167 円）	3,000 円（月額約 250 円）	1,000 円（月額約 83 円）
6	3,000 円（月額約 250 円）	5,000 円（月額約 417 円）	2,000 円（月額約 167 円）
7	5,000 円（月額約 417 円）	8,000 円（月額約 667 円）	3,000 円（月額約 250 円）
8	8,000 円（月額約 667 円）	10,000 円（月額約 833 円）	5,000 円（月額約 417 円）
9	10,000 円（月額約 833 円）	20,000 円（月額約 1,667 円）	8,000 円（月額約 667 円）
10	20,000 円（月額約 1,667 円）	30,000 円（月額約 2,500 円）	10,000 円（月額約 833 円）

ダブルバウンド住民投票方式を分析するモデルとして、ランダム効用モデルを用いた。ランダム効用モデルの考え方は、以下の通りである。例えば、生態系を守るために1,000円を負担してもらい保護政策を回答者に提示し、賛成か反対かを答えてもらう場合を考えると、人々は、生態系が残されることに満足を感じる。この満足を効用と呼ぶ。そして、回答者は、保護政策を実施して1,000円を支払ってでも生態系が残されるとき効用と、保護政策を実施せず、お金を払わないけれども生態系が破壊されるとき効用とを比較する。保護政策を実施したときの効用が高ければ、回答者は「賛成」と答え、逆ならば「反対」と答える。高い金額を提示すれば、効用は低くなるので「賛成」と答える確率は低くなる。そこで、この回答者の効用をある関数型で特定化し、提示額と賛成と答える確率との関係を推定することで、回答者の最大支払っても構わない金額を得ることができる。これがランダム効用モデルによる推定である（栗山 1997）。今回は、過去の類似した調査に基づき、分布関数はロジスティック分布に従い、回答者の効用関数の差は対数線形関数モデルに従うとことを想定し、分析を行った。

支払意思額の推定グラフ例は以下のように示される。ここで支払意思額には、中央値と平均値の2種類がある。中央値は、賛成の回答率が50%、すなわち賛成と反対の意見が半々になる金額に相当する。一方、平均値は曲線の下側の面積に相当する額で、今回は最大提示額である30,000円で裾切りをして算出している。一般に平均値は高めの数値として算出される傾向があることから、今回の分析では、他の類似した環境価値評価で活用された、中央値を下限值、平均値を上限值とする評価を採用する。

図3-3 支払意思額の推定グラフ例



分析には対数線形モデルにて、栗山浩一「Excel でできる CVM Version3.1」(<http://homepage1.nifty.com/kkuri/>)を活用した。

※栗山浩一（1997）、「公共事業と環境の価値－CVMガイドブック」、築地書館

3-2. CVMによる「合流式下水道」改善事業価値算出

- 「合流式下水道」改善事業の価値評価額は1世帯あたり3,353円～7,215円である。
- 「合流式下水道」改善事業の島部を除く東京都としての価値評価額は212億円～455億円である。

Q9. 前述の通り、合流式下水道が与える悪影響を考慮し、現在、雨天時に合流式下水道から川や海などの公共用水域へ放流される汚濁物質を削減して、良好な水環境を創出する合流式下水道のさらなる改善策が検討されています。具体的には【合流式下水道の改善（機能強化）】にある通りですが、この改善策を実施するとあなたの家計にかかる下水道料金が年間**T 1円**上昇するとします。あなたは【合流式下水道の改善（機能強化）】に示した「合流式下水道の改善策」に賛成ですか。それとも反対ですか。この金額は東京都の合流式下水道の改善にのみ使われます。この改善策によって、あなたが普段購入している商品などに使える金額が減ることを十分念頭においてお答えください（単一回答）。

☐ 1. 賛成 ☐ 2. 反対（それほど高くは払いたくない）

Q10. 前の設問で賛成と答えた方にお尋ねします。では、年間**T U円**だけ上昇とした場合、この「合流式下水道の改善策」に賛成ですか。それとも反対ですか（単一回答）。

☐ 1. 賛成 ☐ 2. 反対（それほど高くは払いたくない）

Q10. 前の設問で反対と答えた方にお尋ねします。では、年間**T L円**だけ上昇とした場合、この「合流式下水道の改善策」に賛成ですか。それとも反対ですか（単一回答）。

☐ 1. 賛成 ☐ 2. 反対（それほど高くは払いたくない）

表3-4 「合流式下水道」改善事業パターン別回答数・回答構成比

パターン	T1:賛成 TU:賛成	T1:賛成 TU:反対	T1:反対 TL:賛成	T1:反対 TL:反対	合計数	構成比
1	21	9	5	5	40	10.3%
2	25	11	3	1	40	10.3%
3	21	8	4	6	39	10.1%
4	13	15	3	2	33	8.5%
5	15	11	12	3	41	10.6%
6	13	13	4	10	40	10.3%
7	16	11	10	5	42	10.9%
8	9	6	15	20	50	12.9%
9	4	12	3	12	31	8.0%
10	3	4	7	17	31	8.0%
合計	140	100	66	81	387	100.0%

※ 全回答者392名中、5名が未回答であったため、合計数が387名になっている。

※ 構成比は小数点第2位を四捨五入しており、そのため合計しても100.0%にならないことがある。

表3－5 CVMによる「合流式下水道」改善事業価値推定結果

推定結果

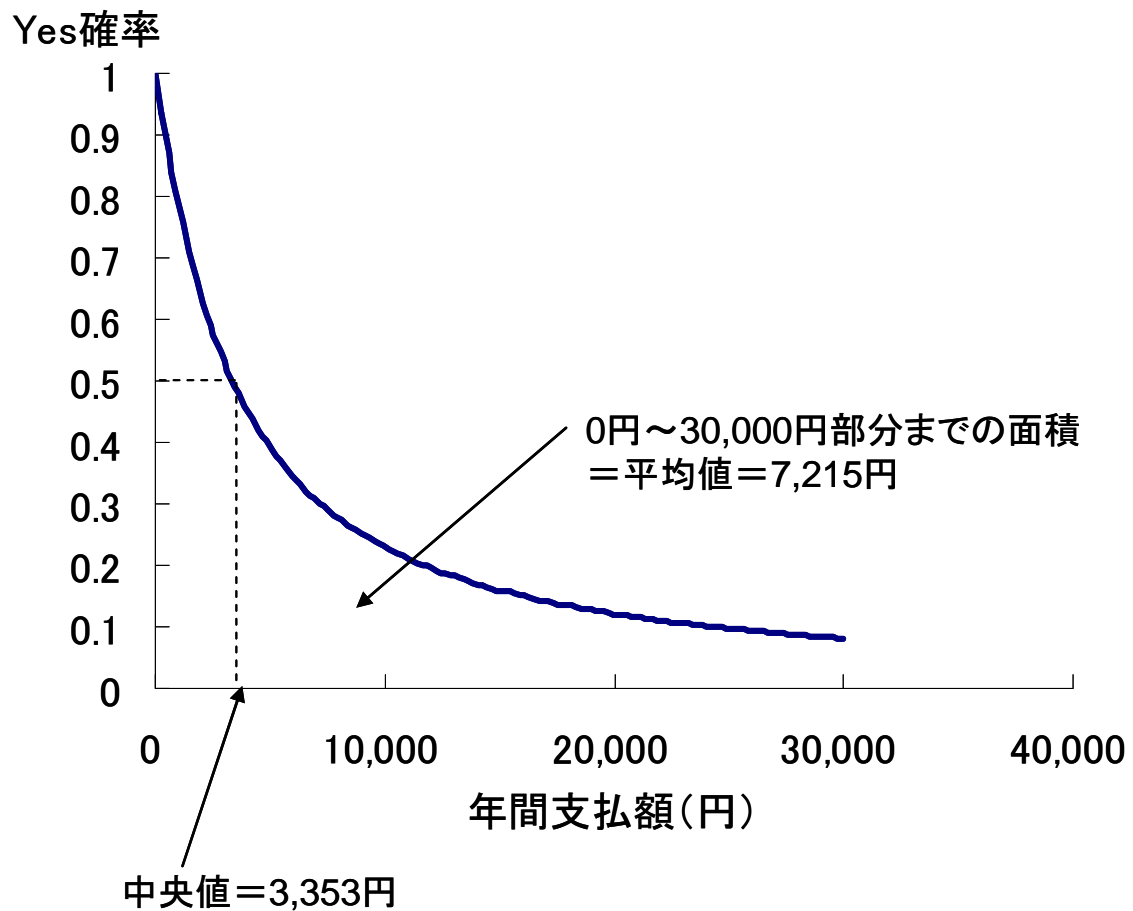
変数	係数	t値	p値
constant	9.0005	15.949	0.000 ***
ln(Bid)	-1.1088	-15.665	0.000 ***
n	387		
対数尤度	-564.562		

推定WTP

(中央値) 3,353

(平均値) 31,321 裾切りなし
7,215 最大提示額で裾切り

図3－6 「合流式下水道」改善事業への支払意思額推定グラフ



前述の分析結果より、ここでは過去の類似の調査の評価額算出方法に基づいて、1世帯あたりの「合流式下水道」改善事業の評価額を中央値～平均値と考える。

また、平成22年9月1日現在の東京都の世帯数（島部を除く）が6,310,431世帯（出所：東京都の統計・住民基本台帳による世帯と人口・平成22年9月、<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/juukim/2010/jm10010000.htm>）であることから1世帯あたりの評価額をかけることで、東京都としての評価額を算出すると以下のようになる。

表3-7 CVMによる「合流式下水道」改善事業価値評価額

	「合流式下水道」改善事業価値評価額
1世帯あたり価値額	3,353円～7,215円
東京都価値額	212億円～455億円

3-3. CVMによる「下水の高度処理」推進事業価値算出

- 「下水の高度処理」推進事業の価値評価額は1世帯あたり2,914円～7,357円である。
- 「下水の高度処理」推進事業の島部を除く東京都としての価値評価額は184億円～464億円である。

Q17. 前述の通り、赤潮の発生が与える影響が大きいことから、良好な水辺環境を創出するため、この赤潮の発生原因のひとつとされている窒素及びりんを除去する高度処理施設のさらなる導入が検討されています。

この改善策を実施するとあなたの家計にかかる下水道料金が**T 1 円**上昇するとしてします。あなたはこの「下水の高度処理施設の導入策」に賛成ですか。それとも反対ですか。この金額は東京都の下水の高度処理施設の推進にのみ使われます。この導入策によって、あなたが普段購入している商品などに使える金額が減ることを十分念頭においてお答えください（単一回答）。

☐ 1. 賛成 ☐ 2. 反対（それほど高くは払いたくない）

Q18. 前の設問で賛成と答えた方にお尋ねします。では、年間**T U 円**だけ上昇とした場合、この「下水の高度処理施設の導入策」に賛成ですか。それとも反対ですか。

☐ 1. 賛成 ☐ 2. 反対（それほど高くは払いたくない）

Q18. 前の設問で反対と答えた方にお尋ねします。では、年間**T L 円**だけ上昇とした場合、この「下水の高度処理施設の導入策」に賛成ですか。それとも反対ですか。

☐ 1. 賛成 ☐ 2. 反対（それほど高くは払いたくない）

表3-8 「下水の高度処理」推進事業パターン別回答数・回答構成比

パターン	T1:賛成 TU:賛成	T1:賛成 TU:反対	T1:反対 TL:賛成	T1:反対 TL:反対	合計数	構成比
1	14	6	6	6	32	10.1%
2	20	4	6	2	32	10.1%
3	15	6	4	6	31	9.8%
4	7	12	5	4	28	8.9%
5	9	10	10	4	33	10.4%
6	9	11	3	8	31	9.8%
7	15	5	10	6	36	11.4%
8	8	6	6	19	39	12.3%
9	6	5	1	13	25	7.9%
10	5	4	9	11	29	9.2%
合計	108	69	60	79	316	100.0%

※ 全回答者 392 名中、76 名が未回答であったため、合計数が 316 名になっている。

※ 構成比は小数点第 2 位を四捨五入しており、そのため合計しても 100.0%にならないことがある。

表3-9 CVMによる「下水の高度処理」推進事業価値推定結果

推定結果

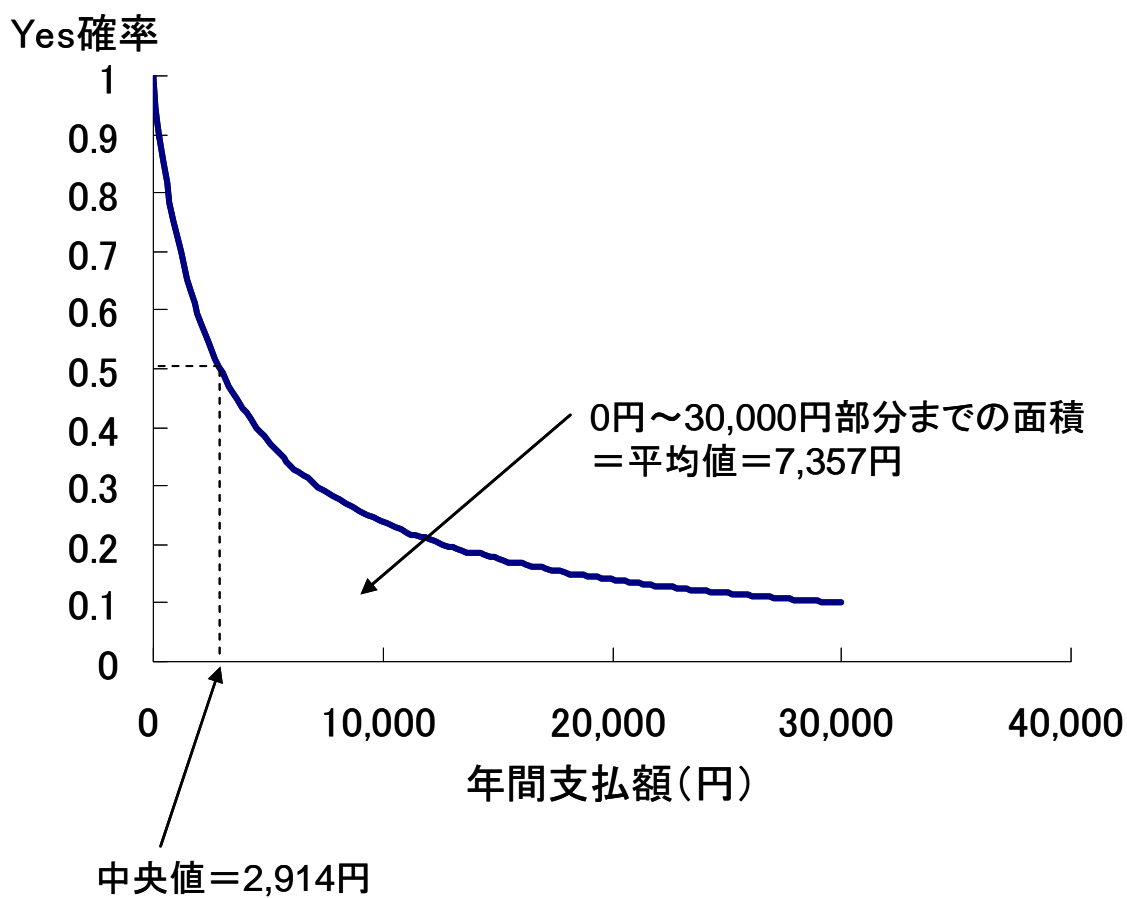
変数	係数	t値	p値
constant	7.5219	14.099	0.000 ***
ln(Bid)	-0.9429	-14.192	0.000 ***
n	316		
対数尤度	-478.484		

推定WTP

(中央値) 2,914

(平均値) ∞ 裾切りなし
7,357 最大提示額で裾切り

図3-10 「下水の高度処理」推進事業への支払意思額推定グラフ



前述の分析結果より、ここでは過去の類似の調査の評価額算出方法に基づいて、1世帯あたりの「下水の高度処理」推進事業の評価額を中央値～平均値と考える。

また、平成22年9月1日現在の東京都の世帯数（島部を除く）が6,310,431世帯（出所：東京都の統計・住民基本台帳による世帯と人口・平成22年9月、<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/juukim/2010/jm10010000.htm>）であることから1世帯あたりの評価額をかけることで、東京都としての評価額を算出すると以下のようになる。

表3-11 CVMによる「下水の高度処理」推進事業価値評価額

	「下水の高度処理」推進事業価値評価額
1世帯あたり価値額	2,914 円～7,357 円
東京都価値額	184 億円～464 億円

3-4. 事業に対する関心度と事業価値評価額の関係

- 「合流式下水道」改善事業に関心の高いグループの価値評価額は1世帯あたり 6,169 円～11,027 円で、全体の価値評価額と比較して、下限値は 2,816 円、上限値は 3,812 円高い。
- 「下水の高度処理」推進事業に関心の高いグループの価値評価額は1世帯あたり 6,633 円～11,387 円で、全体の価値評価額と比較して、下限値は 3,719 円、上限値は 4,030 円高い。

下水道事業に対して関心度の高い回答者は、下水道事業に対する価値評価額が高くなることが想定される。そこで、「合流式下水道」については Q7 で「極めて関心が高まった」と回答したグループを高関心グループ、それ以外の回答を低関心グループとして分割した。また、「下水の高度処理」についても Q15 を元に、合流式下水道同様、高関心グループと低関心グループとに分割した。分割したグループそれぞれについて、CVM方式で価値評価額を算出したところ、以下のような結果となった。

表3-12 関心度別下水事業価値評価額

		1 世帯あたり価値額	東京都価値額
「合流式下水道」 改善事業	高関心グループ	6,169 円～11,027 円 (+2,816 円) (+3,812 円)	389 億円～696 億円 (+178 億円) (+241 億円)
	低関心グループ	2,681 円～ 5,816 円 (-672 円) (-1,399 円)	169 億円～367 億円 (-42 億円) (-88 億円)
	全体	3,353 円～ 7,215 円	212 億円～455 億円
「下水の高度処理」 推進事業	高関心グループ	6,633 円～11,387 円 (+3,719 円) (+4,030 円)	419 億円～719 億円 (+235 億円) (+254 億円)
	低関心グループ	1,936 円～ 5,556 円 (-978 円) (-1,801 円)	122 億円～351 億円 (-62 億円) (-114 億円)
	全体	2,914 円～ 7,357 円	184 億円～464 億円

※ () 内の数値は全体との差

想定どおり、高関心グループは全体と比較して、価値額が下限値、上限値ともに高い。「合流式下水道」改善事業では、関心の高いグループの1世帯あたり価値評価額は全体と比較して、下限値は 2,816 円、上限値は 3,812 円高い。「下水の高度処理」推進事業についても、下限値は 3,719 円、上限値は 4,030 円高い。

3-5. 事業価値評価額の男女差

- 「合流式下水道」改善事業について、男性の価値評価額は1世帯あたり 3,713 円～8,344 円、女性の価値評価額は1世帯あたり 3,053 円～6,240 円である。
- 「下水の高度処理」推進事業について、男性の価値評価額は1世帯あたり 3,309 円～8,629 円、女性の価値評価額は1世帯あたり 2,562 円～6,176 円である。

下水道事業に対する価値評価額が男女によって異なるかどうかを見るために、関心度による違いの分析同様、回答者を男性グループと女性グループとに分割し、それぞれのグループについてCVM方式で価値評価額を算出したところ、以下のような結果となった。

表3-13 性別下水事業価値評価額

		1世帯あたり価値額	東京都価値額
「合流式下水道」改善事業	男性グループ	3,713 円～8,344 円 (+360 円) (+1,129 円)	234 億円～527 億円 (+23 億円) (+71 億円)
	女性グループ	3,053 円～6,240 円 (-300 円) (-975 円)	193 億円～394 億円 (-19 億円) (-62 億円)
	全体	3,353 円～ 7,215 円	212 億円～455 億円
「下水の高度処理」推進事業	男性グループ	3,309 円～8,629 円 (+395 円) (+1,272 円)	209 億円～545 億円 (+25 億円) (+80 億円)
	女性グループ	2,562 円～6,176 円 (-352 円) (-1,181 円)	162 億円～390 億円 (-22 億円) (-75 億円)
	全体	2,914 円～ 7,357 円	184 億円～464 億円

※ () 内の数値は全体との差

男性グループは両事業とも、全体と比較して価値額が下限値、上限値ともに高く、逆に女性グループは下限値、上限値ともに低い。「合流式下水道」改善事業では、男性グループの1世帯あたり価値評価額は全体と比較して、下限値は360円、上限値は1,129円高く、「下水の高度処理」推進事業については、下限値は395円、上限値は1,272円高い。但し、下水道事業に対する関心の高低差と比較すると、男女差は小さな差になっている。

3-6. 事業価値評価額の居住地区差

- 「合流式下水道」改善事業について、23 区の価値評価額は 1 世帯あたり 3,151 円～7,242 円、多摩地区の価値評価額は 1 世帯あたり 3,615 円～7,171 円である。
- 「下水の高度処理」推進事業について、男性の価値評価額は 1 世帯あたり 2,535 円～6,975 円、女性の価値評価額は 1 世帯あたり 3,496 円～7,802 円である。

男女差同様、下水道事業に対する価値評価額が居住地区によって異なるかどうかを見るために、回答者を 23 区グループと多摩地区グループとに分割し、それぞれのグループについて CVM 方式で価値評価額を算出したところ、以下のような結果となった。

表 3-14 地区別下水事業価値評価額

		1 世帯あたり価値額	東京都価値額
「合流式下水道」改善事業	23 区グループ	3,151 円～7,242 円 (-202 円) (+32 円)	199 億円～457 億円 (-13 億円) (+2 億円)
	多摩地区グループ	3,615 円～7,171 円 (+262 円) (-44 円)	228 億円～453 億円 (+17 億円) (-3 億円)
	全体	3,353 円～ 7,215 円	212 億円～455 億円
「下水の高度処理」推進事業	23 区グループ	2,535 円～6,975 円 (-379 円) (-382 円)	160 億円～440 億円 (-24 億円) (-24 億円)
	多摩地区グループ	3,496 円～7,802 円 (+582 円) (+445 円)	221 億円～492 億円 (+37 億円) (+28 億円)
	全体	2,914 円～ 7,357 円	184 億円～464 億円

※ () 内の数値は全体との差

「合流式下水道」改善事業の 1 世帯あたり価値額は、下限値は多摩地区が高いが、上限値は 23 区が高く評価している。

一方、「下水の高度処理」推進事業の 1 世帯あたり価値額は、下限値、上限値とも多摩地区が高く、23 区が低い。

3-7. 事業価値評価額の年代差

- 「合流式下水道」改善事業について、20・30 歳代の価値評価額は 1 世帯あたり 2,330 円～5,405 円、40・50 歳代の価値評価額は 1 世帯あたり 3,261 円～6,501 円、60 歳代以上の価値評価額は 1 世帯あたり 6,189 円～11,387 円である。
- 「下水の高度処理」推進事業について、20・30 歳代の価値評価額は 1 世帯あたり 2,083 円～5,557 円、40・50 歳代の価値評価額は 1 世帯あたり 3,078 円～7,034 円、60 歳代以上の価値評価額は 1 世帯あたり 4,204 円～10,281 円である。

下水道事業に対する価値評価額が年代によって異なるかどうかを見るために、回答者を 20・30 歳代グループ、40・50 歳代グループ、60 歳代以上グループの 3 つに分割し、それぞれのグループについて CVM 方式で価値評価額を算出したところ、以下のような結果となった。

表 3-15 年代別下水事業価値評価額

		1 世帯あたり価値額	東京都価値額
「合流式下水道」 改善事業	20・30 歳代 グループ	2,330 円～5,405 円 (-1,023 円) (-1,810 円)	147 億円～341 億円 (-65 億円) (-114 億円)
	40・50 歳代 グループ	3,261 円～6,501 円 (-92 円) (-714 円)	206 億円～410 億円 (-6 億円) (-45 億円)
	60 歳代以上 グループ	6,189 円～11,387 円 (+2,836 円) (+4,172 円)	391 億円～719 億円 (+179 億円) (+263 億円)
	全体	3,353 円～ 7,215 円	212 億円～455 億円
「下水の高度処理」 推進事業	20・30 歳代 グループ	2,083 円～5,557 円 (-831 円) (-1,800 円)	131 億円～351 億円 (-52 億円) (-114 億円)
	40・50 歳代 グループ	3,078 円～7,034 円 (+164 円) (-323 円)	194 億円～444 億円 (+10 億円) (-20 億円)
	60 歳代以上 グループ	4,204 円～10,281 円 (+1,290 円) (+2,924 円)	265 億円～649 億円 (+81 億円) (+185 億円)
	全体	2,914 円～ 7,357 円	184 億円～464 億円

※ () 内の数値は全体との差

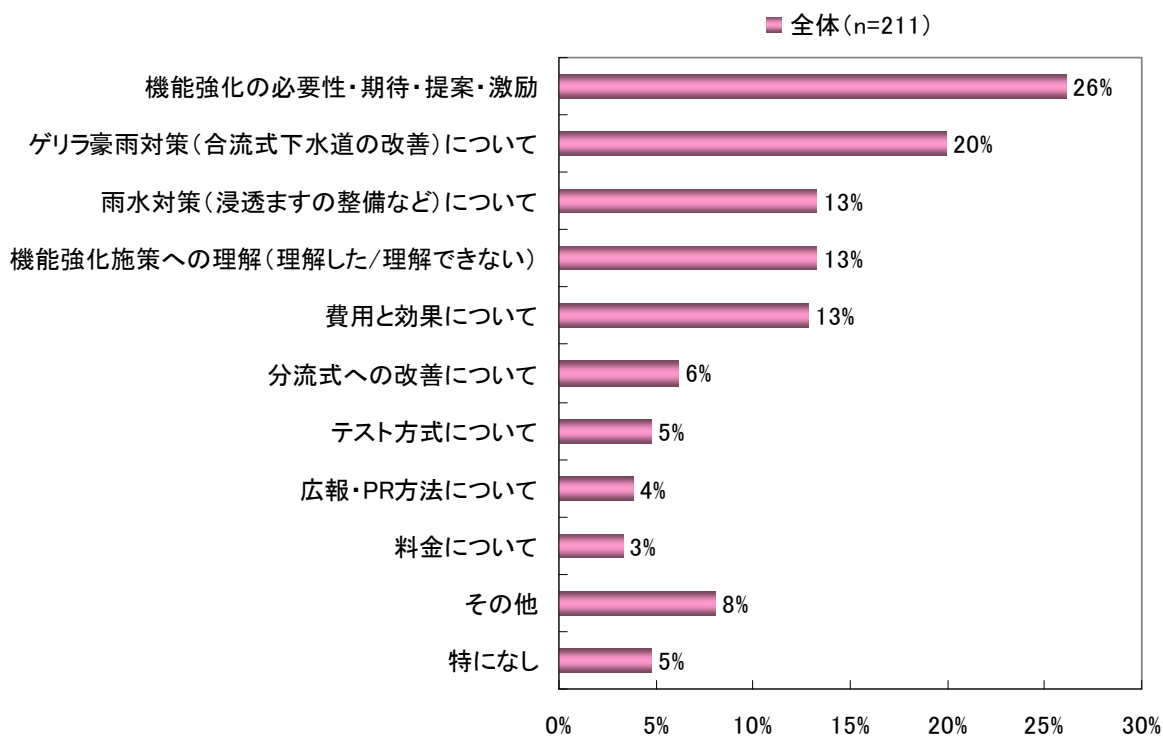
両事業の下限值、上限値ともに、年代が高くなるとともに 1 世帯あたり価値額も高くなる傾向にある。これは、年代の上昇がおおむね所得や資産の上昇に比例しているため、このような傾向になるものと考えられる。

4-1. 「合流式下水道」改善に対する意見

- 「合流式下水道」改善へのご意見としては、「機能強化の必要性・期待・提案・激励」が26%と最も多く、次いで「ゲリラ豪雨（合流式下水道の改善）」についての内容が20%と多い。
- 「合流式下水道」改善へのご意見・ご感想など、多数お寄せいただきましたので、ここに一部ご紹介いたします。

Q8. 「合流式下水道の改善（機能強化）」について、ご意見がございましたら、ご自由にご記入ください（自由回答）。

Q8:合流式下水道の改善(機能強化)についてのご意見【自由回答】



※ 上記は、表記のキーワードに関連する内容を記載した回答者の割合（率）である。

1. 「機能強化の必要性・期待・提案・激励」に関連した意見

- ◆ 機能強化については、一気にではなく、徐々に達成して欲しいと思います。(20 歳代男性、23 区)
- ◆ もっと機能が改善されることを望みます。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ 興味を持っても知らないことって多いんだなと思いました。先日の台風による被害映像を見ても、恐ろしいことが起こっていてびっくりしています。目に見えないものの強化が必要だと思いました。(30 歳代女性、23 区)

- ◆ 環境保全のために、改善がされていることをよく知りませんでした。これからも機能改善に努めて下さい。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 治水は昔から重要な公共事業である。機能強化を図って頂きたい。(40 歳代男性、多摩地区)

2. 「ゲリラ豪雨対策（合流式下水道の改善）について」に関連した意見

- ◆ いうゆるゲリラ豪雨が頻繁に発生する昨今、川や海的环境汚染を防ぐため、早急に整備を進める必要がある。(20 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 年々、ゲリラ豪雨による冠水回数が増加しており、安全面、衛生面など、都市的な水害対策の必要性が高まっていると思います。これからはしっかり進めていていただきたいと思います。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ ゲリラ豪雨が頻発している現在、特に首都圏では改善点がわかっているのであれば、一刻も早く取り組んで設備を増やしてほしいと考えます。(30 歳代女性、23 区)
- ◆ 昨今のゲリラと言われる豪雨対策を大きく上回る容量を前提とした機能強化が首都機能確保維持のために必要と思料します。そのためには23区内の法人個人への負担・権利制限等もやむを得ないと思料します。多摩地域の負担増と23区内の負担増に格差を設けて実施すべきと考えます。(50 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 未記録のゲリラ豪雨がしばし見られる昨今、「合流式下水道」の改善（機能強化）のみでは対処不能に陥る可能性大ではないだろうか？抜本的な設備が必要と思われる。(70 歳代男性、多摩地区)

3. 「雨水対策（浸透ますの整備など）について」に関連した意見

- ◆ 個々の対策についてはよくわかりましたが、それぞれの対策にどの程度の効果があるのかは、よく分かりません。雨水浸透や貯留（有効利用）が各家庭で進められることでどの程度河川環境等への負荷が改善されるのかなどの観点から情報がないと、受益者負担といわれてもピンときません。(20 歳代男性、23 区)
- ◆ 大雨によってあふれた汚水は海や川だけでなく住宅にも悪臭や雑菌汚染などの影響があるのではないのでしょうか。その点に対する対策はないのか疑問に思いました。(30 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 雨水浸透ますを設置していますが、昨今の大雨の時は、溢れて庭が湖になり困ります。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 最近、雨水の有効利用の記事などがよくでていますが、分流式下水道との併用によって改善はできないのでしょうか。(40 歳代女性、23 区)

- ◆ 本来は分流式が良いと思いますが、現実としては必要なのでしょう。雨水が下水道に流れ込まないようにする施策が大切だと思います。具体的には、雨水浸透アスファルトや、コンクリートの公園などの芝生化、雨水タンクへの助成などに力を入れてほしいと思います。(40 歳代女性、多摩地区)

4. 「機能強化施策への理解（理解した/理解できない）」に関連した意見

- ◆ 合流式下水道の機能強化が望まれているのは理解できましたが環境にどの程度の影響を与えているのか数値的なものがないためいまいち判断することができません。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ 生活污水は浄化した上で、川や海に排出されるのが当たり前だと思っていたが、そうではないことを知った。海や川の水質を保つためにも、汚水は雨水と一緒にせず、浄化してから川や海へ流すほうが環境の面でもいいような気がする。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 汚水を上手に再生センターまで流すのに、このようないろいろな取り組みがなされていることに驚きました。(40 歳代女性、23 区)
- ◆ 個々の改善策については理解できましたが、全体でどれくらいの効果があるのか、50mm/時を超える大雨の時にも有効なのかがわかりませんでした。(60 歳代男性、23 区)
- ◆ 合流式下水道の改善策はいろいろと策をこうじていることが分かりましたが、なぜ分流式下水道を推進しないのか、今回説明がないので、そのところがよく理解できていません。(60 歳代男性、多摩地区)

5. 「費用と効果について」に関連した意見

- ◆ 合流式の改善は必要だけれど、費用、どこまでを良しとするかという評価が難しいですね。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ この機能実現にはお金掛かるんでしょうね。。。やはり私たちの負担ですか？月額何十円でもあちこちで取られるとかなりの額ですよ。でもしょうがないのかな……。 (40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 合流式下水道の改善は、重要で、かつ、必要であるといえるでしょう。結局は、コストとの関係になると考えます。(50 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 費用面での問題があると思いますが、昨今の集中豪雨の甚大な被害を考えますと、早急な対策が必要と思われます。(50 歳代女性、23 区)
- ◆ 改善策でどの程度効果があるのか、なかなかイメージが出てこない。(60 歳代男性、23 区)

6. 「分流式への改善について」に関連した意見

- ◆ 分留式のままで、時には汚水が海に直接流れてしまうよりは、合流式にしたほうが良いと思いますが、雨水に関しては、水資源としての利用が様々な形で利用可能だと思うので、海に流れてしまうよりは極力雨水タンクや浸透マスを整備したほうが良いのではないかと思います。(20 歳代女性、23 区)
- ◆ 大雨でも汚水が川に流されない分流式のほうがよい、という印象があり、合流式の改善よりも、分流への転換を進める方がよいのではないかと。(30 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 長期的な展望を持って、分流式の構築を考えて欲しい。(60 歳代男性、23 区)
- ◆ 分流式下水道がどう考えても環境に優しく、その方面での改善はないのでしょうか？(60 歳代男性、23 区)
- ◆ 分流式が理想だと思いますが、、、やはりイニシャルコストなどに問題があるのでしょうか。(60 歳代男性、多摩地区)

7. 「テスト方式について」に関連した意見

- ◆ このアンケートをするまで、「合流式下水道」という言葉すら知らなかったが、説明やイラストがとても分かりやすく全体的によく理解できた。(20 歳代女性、23 区)
- ◆ 文字と図だけでの説明では「合流式下水道の改善」の有効性や改善策が、なかなか伝わりづらいです。最近の大雨などの異常気象を見ると、きっと必要な事だとは思いますが、その必要性をもっとわかり易く伝えて頂ければと思います。(40 歳代女性、23 区)
- ◆ 理解させたかったら、文字のフォントを大きくしたり、受け取りやすいような工夫が必要と感じます。ただ文字の羅列をして、自分自身で勝手に読み取れ、という姿勢は、不親切に感じます。民間の市場調査のアンケートなどでは、有り得ません。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 2 日前の久しぶりに東京に雨が降った時、私の住んでいる地域はいわゆるゲリラ豪雨はなかったのですが、テレビによると、地域によっては、下水のふたが持ち上がるような現象があったということを知りました。合流式下水道では、こんなことがおきくことは避けられないので、貯留管や貯留池がかかせないけれど・・・これからは着実にこういう設備を整備することが大事ではないか。ただコストがかかるけれど。(60 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 説明がわかりにくいので、効果の有無についてもよくわからない。もう少し詳しい説明がほしい。(60 歳代男性、23 区)

8. 「広報・PR 方法について」に関連した意見

- ◆ 下水道に関する知識が一般市民にあまり浸透していないように感じます。河川や海の汚染は家庭の汚水が原因であること、下水道の仕組みをより多くの市民の方にわかっていただき、家庭での生ゴミを流さない、油を流さない等環境に配慮していただけるようにする必要がありますと感じます。(20 歳代女性、23 区)
- ◆ 環境対策として緑化等々が前面に出ているが、バイオ含めもっと下水のことを知らせるべき。(40 歳代男性、23 区)
- ◆ もっと広報活動（ニュース番組。単なる広報誌の配布等は NG）を行い、住民に理解させるべき使用する我々もそれも理解したうえで生活するべき。(40 歳代男性、23 区)
- ◆ 電車内のポスター広告等で広く宣伝して認知度を高めるべきと思います。(40 歳代女性、23 区)
- ◆ もっと一般市民に認知されるようにしてほしいです。こういったことはもっと改善に対する理解があった方がスムーズに進むと思います。(40 歳代女性、多摩地区)

9. 「料金について」に関連した意見

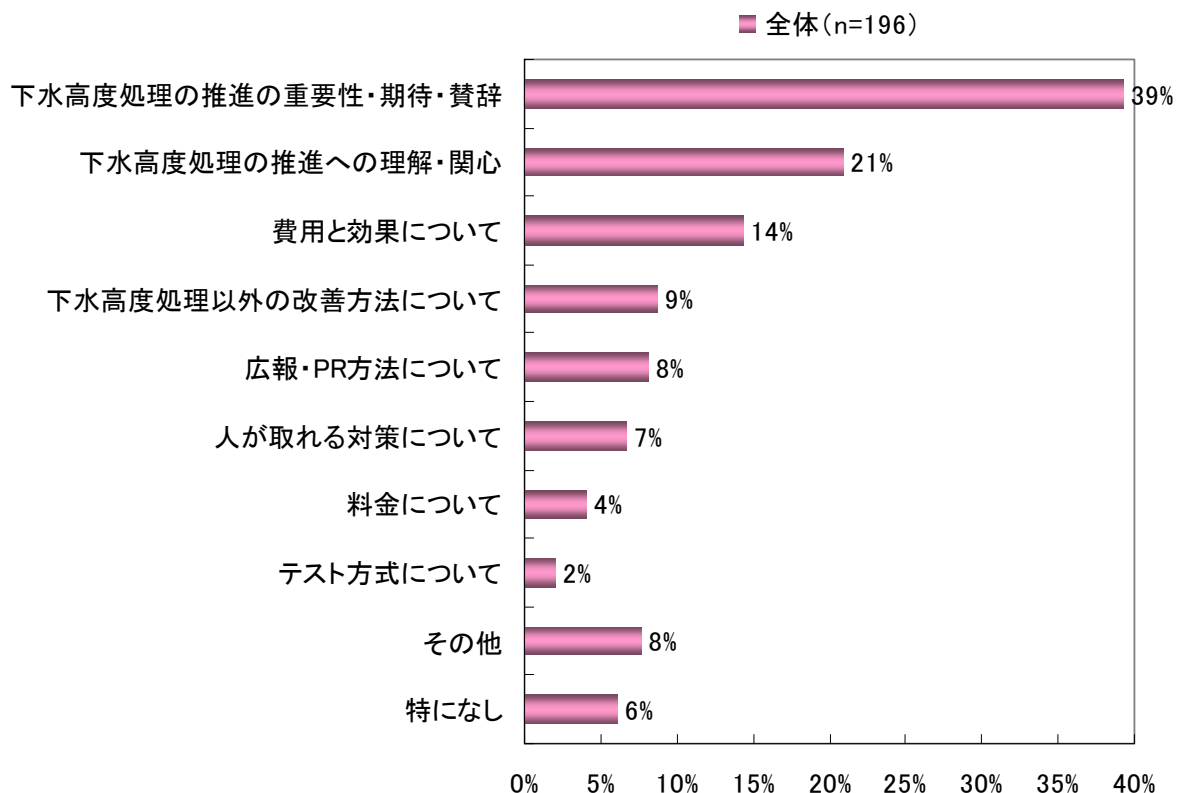
- ◆ 機能強化は必要だと思います。年間に下水道料金に上乗せしてがいいのか、税金でまかなった方がいいのかは少し判断がつきませんでした。(30 歳代女性、23 区)
- ◆ 合流式の機能強化はあくまでも暫定措置で、本来は分流式に全面移行する事が望ましいと考えます。下記の Q9, Q10 に反対なのは、暫定措置に金をかけるべきではないとの考えからで、分流式になった場合の使用料上昇は賛成です。ただし、全ての下水道利用者が均等に負担する事が条件です。また、下水道事業の収支を全て公表（詳細まで）する事も条件となります。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 雨水がそのまま川などに流れてしまう場合もあるということを知って、驚きました。知らない人も多いと思います。でも、ただでさえ、東京の上下水道代は高いと思うので、これ以上下水道料金が高くなるのは、つらいです。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 年間 2000 円でも、1 か月ペットボトル 1 本程度だと思えば安いものだと思います。世帯で一律いくら、ではなく水道の使用量・・・下水道にかかる負荷の割合で決めたらいいと思います。(50 歳代女性、23 区)
- ◆ 年々豪雨の頻度、程度が増しており、大きな不安を感じている。基本的にはこれらの機能強化を優先的に進めてもらいたい。ただ、強化に伴う負担を月々の下水道料金に上乗せすることには疑問がある。他の防災対策などとあわせた全体的な都市整備として、管轄の垣根を超えて進めるべきだと思う。(50 歳代男性、23 区)

4-2. 「下水の高度処理」推進に対する意見

- 「下水の高度処理」推進のご意見としては、「下水高度処理の推進の重要性・期待・賛辞」が39%と最も多く、次いで「下水高度処理の推進への理解・関心」が21%と多い。
- 「下水の高度処理」推進へのご意見・ご感想など、多数お寄せいただきましたので、ここに一部ご紹介いたします。

Q16. 「下水の高度処理の推進」について、何かご意見がございましたら、ご自由にご記入ください（自由回答）。

Q16: 下水の高度処理の推進についてのご意見【自由回答】



※ 上記は、表記のキーワードに関連する内容を記載した回答者の割合（率）である。

1. 「下水高度処理の推進の重要性・期待・賛辞」に関連した意見

- ◆ 高度処理の推進はいいことだと思う。進めてほしい。(20歳代男性、23区)
- ◆ 下水の高度処理の導入は必要な事態だと思いますが、こちらも段階的に導入することが望ましいです。(20歳代男性、23区)

- ◆ 日本の衛生面で重要な任務を担う下水道、これからあらゆる面で地球の変化があると思われませんが、安心して生活できるよう、高度処理の推進に期待したいです。(20 歳代女性、23 区)
- ◆ 自分の住んでいる地域が汚れているのは嫌なので、こういった取り組みには賛成です。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 海がきれいになるのは望ましい。(40 歳代男性、多摩地区)

2. 「下水高度処理の推進への理解・関心」に関連した意見

- ◆ 具体的にどのような方法で高度処理をするのかについても知りたい。(20 歳代女性、23 区)
- ◆ 東京湾の水質向上に「下水の高度処理推進」が一定の効果をあげていることを知りませんでした。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ 下水以外の赤潮の原因は？また、下水の高度処理を実施した場合、現行よりどの程度の赤潮が減らせると予想されるのか？その点についてもっと知りたい。(40 歳代男性、23 区)
- ◆ 東京湾の環境保全のために下水の処理が必要なのはわかる。でも下水以外にも環境悪化の要因がまだまだありそうで、下水処理にだけに金をかけても焼け石に水にならないだろうか。(40 歳代男性、23 区)
- ◆ 高度処理施設とはどのくらいの規模で、どういう処理方法なのか解り易く教えていただければ有難いです。(40 歳代女性、23 区)

3. 「費用と効果について」に関連した意見

- ◆ 下水が海にたどり着くなら高度処理をしてもらいたいのはみんな思っていると思います。それにかかる費用が年間 800 円上昇するくらい全然負担にならないです。我が家は裕福ではないですが 800 円くらいどうにかかります！！(20 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 施設の設備には多額の費用がかかるので、他の手段が本当はないのか十分に調査を行ってほしい。(40 歳代男性、23 区)
- ◆ 赤潮との因果関係の明確化が必要。そして、高度処理によって、どれだけの利益が見込めるのかの試算が必要。(50 歳代男性、23 区)
- ◆ 下水の高度処理について、その対策をしなければならないことはよく分かりましたが、具体的に現状の下水処理と高度処理との違いが判りません。益して、どのような設備にどの程度の費用がかかるのかの明示がなく、費用負担ありきで、都民に年間 8000~10000 円の負担を強いるような考え方は、「押し売り」と同じです。現状の年間予算の無駄遣いを縮減し、その上で都民に負担を負ってもらうことが肝要と思います。(60 歳代男性、23 区)

- ◆ 推進することによって、具体的に赤潮の被害がどう改善されるのかについての説明が欲しい。費用対効果はどうなるのかも知りたい。それなくして料金負担は賛成かと言われても答えられない。反対と言わざるを得ない。(70 歳代男性、23 区)

4. 「下水高度処理以外の改善方法について」に関連した意見

- ◆ 東京湾の汚染は下水の処理を改善するだけで改善するものかどうか疑問に思います。下水の他に原因はないのでしょうか。(30 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 私たちが流している汚水により、生態系が悪影響を受けることは出来るだけさけたいと思いました。そのためには高度処理を施すだけでなく、水の流し方にも注意が必要だと思いました。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 下水を「処理」する方向ばかりでなく、何か「流用」する方法は無い物でしょうか。昔の人が汚水を畑の肥やしに使ったように、自然の摂理上何らかの用途(流用先)が存在すると思います。(40 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 高度処理を実施するためには値上げが必要ということで、賛成にはしましたが、無駄を削って値上げをせずに改善できる方法をまず検討すべきだと思います。(60 歳代男性、23 区)
- ◆ 出来るだけお金をかけない方途を検討して頂きたい。(60 歳代男性、23 区)

5. 「広報・PR 方法について」に関連した意見

- ◆ 赤潮の被害のニュースを見聞きしたことがないので被害の具合を世間広く一般に提供する機会があるとさらに関心が深まると思います。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ 自分たちができることがいろいろあるが世間ではあまり浸透していないように感じる。私も施設見学に行き知ったことがあったので。(30 歳代女性、23 区)
- ◆ やはり聞きなれない言葉でよくわからないが、説明を読むと少し理解できる。子供にも理解できるようにもう少し簡単な説明で、いろいろな人にもっと伝えていけば良いと思います。(30 歳代女性、23 区)
- ◆ 早急に実施すべきであり、もっと広く認知してもらう必要がある。(40 歳代男性、23 区)
- ◆ 赤潮が発生する原因の一つに、下水処理に含まれる窒素及びりんが考えられるということについて、もっとわかりやすい広報活動を行ったらいいのではないのでしょうか。(40 歳代女性、23 区)

6. 「人が取れる対策について」に関連した意見

- ◆ 東京湾の近くに住んでいるためとても興味がある問題です。できる限りの協力はしたいと思った。(30 歳代女性、23 区)

- ◆ 温暖化は止められない一方で、何か人間ができることがあるように思います。高度処理によって、プランクトンの発生が少しでも抑えられたらいいですね。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 住民はもちろん、企業も協力して下水の高度処理の推進を図るべきだと感じた。(50 歳代女性、23 区)
- ◆ 身近な所で、毎日の米のとぎ汁等植物に使うことで、有効利用している。雨水もしかり。(60 歳代女性、23 区)

7. 「料金について」に関連した意見

- ◆ 私たちの日常水を安全にすることは必要である。けれども、税金などが値上がりしている昨今に一般家庭の支出をあまりにも上げるようなことになるのであれば、もっと低コストで他によい案を考えたいと思う。(20 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 環境を自然に戻す取り組みは、必要だと思います。全員にかかわることなので、税金で賄うことが望ましいと思います。(40 歳代女性、23 区)
- ◆ 下水の高度処理などの必要性はわかるが、不景気なうちはなるべく月々の出費を減らしたいので、お金がかからない方法で進めてほしい。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 年間負担が高すぎるとは思いますが、反対するのは将来に対する展望（分流式）が見えてこないことから賛同できないと思っています。(60 歳代男性、23 区)

8. 「テスト方式について」に関連した意見

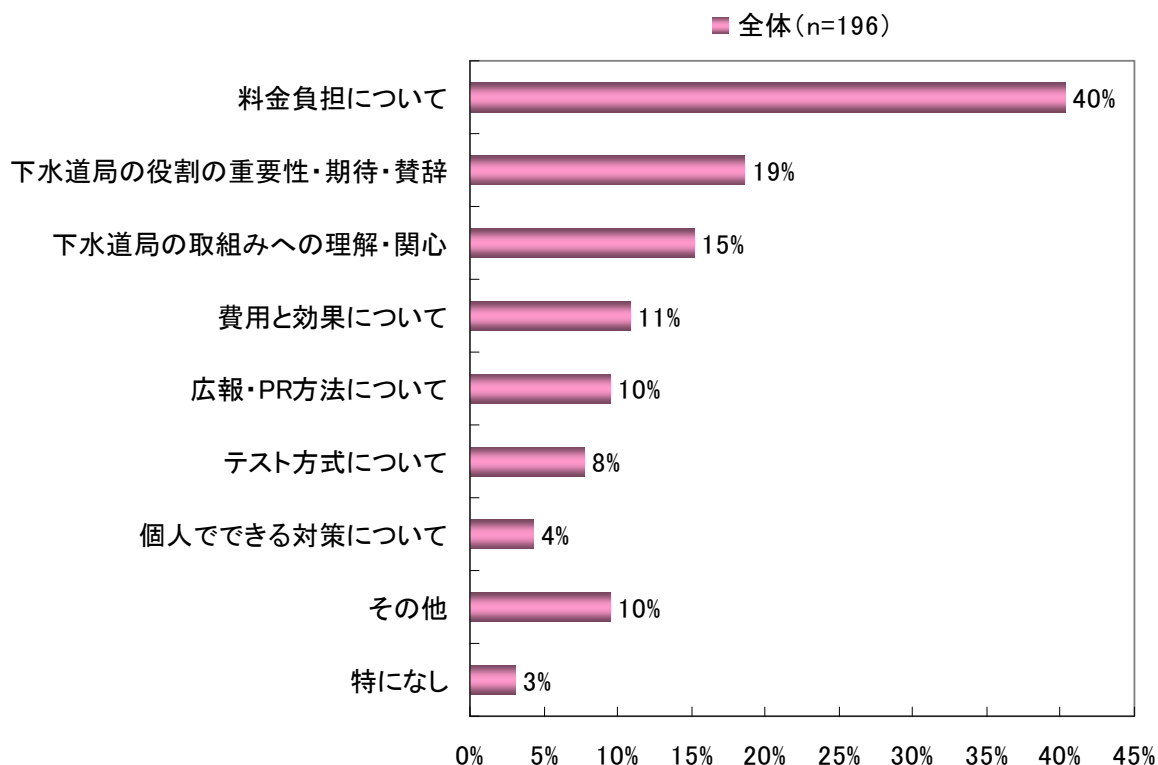
- ◆ この説明だけでは理解不能。(40 歳代男性、23 区)
- ◆ この処理の内容を説明してあると興味をもてる。現状設備の改善がなぜできないのか、など気になる。(60 歳代男性、多摩地区)

4-3. 全体に対する意見

- 全体を通じてのご意見としては、「料金負担について」が40%と最も多く、次いで「下水道局の役割の重要性・期待・賛辞」に関する内容が19%と多い。
- 全体を通じてのご意見やご要望、アンケートに対する感想など、多数お寄せいただきましたので、ここに一部ご紹介いたします。

Q19. 全体を通じて何かご意見がありましたら、ご自由にご記入ください（自由回答）。

Q19: 全体を通じてのご意見【自由回答】



※ 上記は、表記のキーワードに関連する内容を記載した回答者の割合（率）である。

1. 「料金負担について」に関連した意見

- ◆ 高い金額を払ってまでやってもらいたくない。こちらは生活がかかっている。
(20 歳代男性、23 区)
- ◆ 下水道料金が年間 500 円のラインを超えると、誰もが高いと感じると思います。大幅な値上げは反発につながるので、料金の値上げについては極めて慎重に行って欲しいです。(20 歳代男性、23 区)

- ◆ 合流改善と高度処理導入に伴う料金値上げには賛同する姿勢だが、それぞれに対し値上げが発生し、年間で1万円も値上げされるのは負担が大きすぎると感じた。また、それらを導入した場合、その成果を具体的なデータで説明して欲しいと思う。(20歳代男性、多摩地区)
- ◆ できたら金額負担のない程度でお願いしたいけれど.. 必要なら仕方がない。(30歳代男性、多摩地区)
- ◆ 年間で千円もしないなら各家庭の負担にはあまりならないと思います。(30歳代女性、23区)

2. 「下水道局の役割の重要性・期待・賛辞」に関連した意見

- ◆ 環境のことを考え長い目でみると、下水設備の改善は必要だと思う。(30歳代女性、23区)
- ◆ 下水道の改善・下水の高度処理は必要な事だと思います。しかし各家庭に金額負担を実施する前に十分な説明が必要だと思います。現在下水道料金を支払っているのだからその金額でできると思う人が多いから。(30歳代女性、多摩地区)
- ◆ 豪雨、赤潮ともに差し迫った状況にあること、整備に多額の費用がかかることがよく理解できた。都民の負担はやむを得ないことだと思う。ただ、東京では地震、ヒートアイランド現象など、他にも重点的に対策を進めるべき問題があり、都市としての東京全体で考えて、バランスと必要性を考慮して整備を進めてもらいたい。(40歳代男性、23区)
- ◆ 水の浄化に対して、下水道の役割の大切さを実感します。(40歳代男性、多摩地区)
- ◆ 環境負荷に対する下水道の役割は大きいと思うので出来る限り早く改善、推進を望む。(60歳代男性、23区)

3. 「下水道局の取組みへの理解・関心」に関連した意見

- ◆ 東京都下水道局は、かなり環境に配慮した取り組みを積極的に行っていることが分かった。これからも、この取り組みを続けていってほしい。また、こうした取り組みに関する情報を、ホームページや下水道局の広報誌に、どんどん載せてほしい。下水道局が、生活環境改善の取り組みを行うだけでなく、私達のような日々の利用者にも環境改善を呼びかけることが大切ではないだろうか。(20歳代女性、多摩地区)
- ◆ もっと下水処理等に関して興味を持たないといけないと感じました。(30歳代男性、23区)
- ◆ 毎日使用するものの中にも、よく知らないことがたくさんあります。今後は、よく、下水道の情報に過敏にならなくてはと思いました。(40歳代男性、23区)
- ◆ 知らないことが多かったので、新しい知識が増えてよかった。(40歳代男性、23区)

4. 「費用と効果について」に関連した意見

- ◆ 毎月の負担額はそれほど大きくはないと思いますが、他の公共事業も費用が高くなり物価も上昇し、収入が低くなっている状況を考えると、具体的な効果がもっとわかりやすい物にお金を掛けたいと感じてしまいます。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ 維持管理に費用がかかるのは理解しているが、庶民に負担を増加させるのは反対。(30 歳代男性、多摩地区)
- ◆ 環境保全のため費用を掛けるべきところは都民の認知、了承のもと邁進するべきだと思います。(40 歳代女性、23 区)
- ◆ コストを抑えての処理方法をもっと検討、研究する必要があると思う。(50 歳代男性、23 区)

5. 「広報・PR 方法について」に関連した意見

- ◆ 水道の安全を守るために都民にもう少し理解を得る情報が必要だと思う。(20 歳代女性、23 区)
- ◆ やはり身近に感じられないので、色々な方に知ってもらうのがよいと思います。もっと、分かりやすく親しみやすい情報を提供してもらいたいです。そうすると、もっと環境に興味をもてると思います。(30 歳代女性、23 区)
- ◆ 東京アメッシュを観る前までは、どうしても私個人的な印象としては、下水道局自体影が薄いです。もっと注目されるようになったら様々な取り組みが進みやすくなるのではないのでしょうか？(40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 環境は 1 度壊れたら元に戻すのはたいへんなので、都民に理解してもらうように説明を尽くし、導入して欲しい。(50 歳代女性、23 区)

6. 「テスト方式について」に関連した意見

- ◆ 説明書きの文字が読みにくい。(30 歳代男性、23 区)
- ◆ 出てくるグラフや数字の検証ができないので、それが正しいと仮定して回答するしかなかった。(30 歳代男性、多摩地区)
- ◆ アンケートに答えながら、学ぶことも多いので楽しい。環境問題については今後も興味を持っていきたい。(30 歳代女性、23 区)

- ◆ 具体的にどのような営業努力をした結果下水道料金がこれだけ値上がりする、という丁寧な説明がないので、値上げには反対と答えざるを得ない。また、添付されている資料の文字が細かく、いかにも読む気を失せさせるレイアウトです。アピールしよう、わかってももらいたい、という気持ちが感じられません。こういう、対外的な姿勢が、最も大きな問題なんだということがよく分かりました。まず体質改善を強くお願いいたします。
(40 歳代男性、23 区)

7. 「個人でできる対策について」に関連した意見

- ◆ 金額で示されると、できるなら払いたくないと思うのは心情なのですが、やるべきだと思うかどうかと問われれば、NO と答える人はいないと思います。処理場できれいにすることばかりではなく、各家庭などから排出を減らす方法や、雨水の利用の促進を促すなどもできることだと思いました。(20 歳代女性、23 区)
- ◆ 意識して生活することでもっとできることがらと思う。(30 歳代女性、23 区)
- ◆ 川や海を汚さないようにするために月々負担しなくてはいけないことはしょうがないことかもしれないが、その前に一人一人がもっと生活排水をきれいにすることを心がけなくてはいけないと思う。(40 歳代女性、23 区)
- ◆ 各家庭で気をつけるべきことがあれば、それをもっと伝えてほしい。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ 東京湾でとれた魚を食べる機会があると思うので、自分も海の恩恵にあずかっている。できることは協力したいと思います。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◆ これからは環境保護対策のために生活者の負担は致し方ないと思います。そして、個々人も環境のためにできることを取り組む必要があると感じています。(50 歳代女性、23 区)
- ◆ 環境問題に関して、下水道局がさまざまな対策を立てて取り組んでいるのを知り、安心した。でも、正直言って、お金は余り払いたくない。私生活において、油は流さない、洗剤も環境にやさしいものを使う等出来ることから、やって行きたいと考えている。(60 歳代女性、23 区)

以 上